

# 関西大学高等部・中等部 2015 年度学校評価報告書



2016 年 3 月



# 目 次

1	本校の概要.....	1
2	今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策.....	1
3	アンケートの実施状況について.....	6
4	アンケート結果の分析.....	7
5	学校関係者評価委員会からの評価結果.....	12
6	校長の意見書.....	14

## 参考資料

2015年度 関西大学高等部・中等部点検・評価アンケート集計

# 2015 年度 関西大学高等部・中等部学校評価報告書

関西大学高等部・中等部  
自己点検・評価委員会

## 1 本校の概要

### (1) 沿革

2010 年 4 月に高槻ミュージックキャンパスの地に初等部からの一貫教育をめざして、中等部 3 クラス、高等部 4 クラスが開校。施設設備面では教室に電子黒板が標準装備され、マルチメディア教室をはじめ PC、iPad も多数用意され、最新の ICT 教育環境が整っている。中等部では週 7 時間の英語と「考える科」による思考力の育成を特徴としている。一方、2014 年に文部科学省からスーパーグローバルハイスクール (SGH) として採択を受けると共に、高等部ではプロジェクト学習による探究力の育成を特徴としている。

現在、初等部からの内部進学生を中等部に迎えて二年目、開校当初の単独校種による教育活動の展開から、中高 6 年・初中高 12 年一貫教育のための教育活動へと、これまでの取組を修正する大きな過渡期に入っている。

### (2) 建学の精神、教育理念・教育方針・教育目標等

関西大学の教育理念である「学の実化」に基づき、学理と実際の調和を基本とする独自の教育を展開し、一貫教育を通じて「確かな学力」「国際理解力」「情感豊かな心」「健やかな体」「高い人間力」を育てることを本校の教育理念としている。

## 2 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

### (1) 重点目標①：初中高一貫教育の後半を担い、確かな学力を養うことによって、各自の進路希望を実現させる

達成状況の目安：(◎)大幅達成・(○)達成・(△)未達成・(×)大幅未達成

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
ア 中等部では「5 教科学力の底上げ」と「家庭学習習慣の定着」のため、課題→点検→確認テストを実践。学習規律を中等部で定着させる。 イ 中等部 1、2 年生に関する学習生活実態データを分析し、初等部からの内部進学が始まった中等部の教育活動を修正改良する。	【取組状況(Do)】 アについては、課題→点検→確認テストという流れで、家庭学習習慣の定着度確認を実践している。 イについては、中等部 4 月の学力推移調査による学習実態データを学年毎に集約し、学年から教科担当者に情報提供する流れを構築した。  【達成状況(Check)】 (△) 学校生活アンケートによれば、学習規律として課題や提出物にまじめに取り組んでいるとの回答者が、中 1 年で 63.9%、中 2 年で 68.2%、中 3 年で 66.6%であった。 学力推移調査による学習実態データは、毎回学年から教科担当者に情報提供されている。生活実態データによれば、

<p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の該当アンケート項目でのプラス評価 70%以上</li> <li>学力推移調査の学習成績及び生活実態データの推移状況の分析</li> </ul>	<p>平日の家庭学習が 30 分前後の者が中 1 中 2 生ともに 29%と変わらなかったが、休日の家庭学習時間が 3 時間以上の者は 40%と増加した。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>学校生活アンケート「成績低迷時の適切なフォロー」にマイナス回答した者の内、「家庭学習習慣が身につけていない」と回答した重複率が中 1 年で 40%、中 2 年で 45%、中 3 年で 51%であった。データの分析結果から、平日の家庭学習時間が少ない者は固定化していることが分かり、引き続き個別に粘り強く指導していきたい。</p> <p>教科によっては適宜アクティブラーニングを取り入れ、授業参加意欲を喚起し、学力の全体的な底上げを図りたい。</p>
<p>ウ 高等部では「自主学習習慣の定着」のため、目標到達ラインを意識させた具体的な学習指導を行う。</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の該当アンケート項目でのプラス評価 70%以上</li> <li>スタディーサポートの実施</li> <li>模試後のデータに基づいた効果的な個人面談の実施</li> <li>高 1 年国立クラス希望者に対する新たなガイダンスの実施</li> <li>関大内部進学希望者 100%合格、難関国立大 10 名合格</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>模試後に個人成績票から読み取るべきポイントも押さえた個人面談を年間平均 2～3 回実施した。</p> <p>4 月と 9 月のスタディーサポート実施により、夏休み前後での学習に対する意識と取組状況を把握し、担当が個人面談に反映した。</p> <p><b>【達成状況(Check)】</b> (○)</p> <p>「模試後の面談がその後の自分の学習に役立っている」では、前学年からの比較でプラス評価が高 1 年 9.8%、高 2 年 0.3%、高 3 年 4.5%の増となり、概ね 70%に達した。</p> <p>高 1 年での国立クラス希望者ガイダンスを 2 回実施した。本年度の関西大学内部進学も希望者全員が合格している。難関国立大の合格発表は本報告書作成時には判明していない。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>中等部から高等部への計画的な学習習慣指導を確立し、「自主学習習慣の定着」を定量的にチェックする方法を探る。</p> <p>授業内容と課題内容との間に緊密な関係を一層持たせ、授業内容の密度を上げる取組を行う。</p>

(2) 重点目標②：関西大学の併設校出身であることにプライドを持ち、国際的な視野と思考力・探究力を備えた「関西大学への推薦にふさわしい人物」の育成

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 関西大学への帰属意識を高め、規律と品格のある生徒集団の育成</p> <p>イ 関西大学への理解を生徒・保護者に深め、関大志望者の育成に努める</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中高と関大との連携行事の実施</li> <li>・ 生徒の該当アンケート項目でのプラス評価 70%以上</li> <li>・ 保護者の該当アンケート項目でのプラス評価 70%以上</li> </ul>	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>中高1年生の宿泊研修において、関西大学への理解を目的とした研修を実施した。また、千里山キャンパスでのフィールドワーク、総合関関戦の試合応援、体育祭における大学応援団本部の指導による応援合戦、文化会サークルと吹奏楽部や合唱同好会のコラボ公演、年間8回におよぶ中大連携特別授業の実施等、様々な単位での連携を実施した。</p> <p>保護者には、本校教育後援会主催での千里山キャンパス見学会を実施した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (△)</p> <p>「規範意識の向上」に対するプラス評価は、中等部平均 68.6%、高等部平均 65.8%。</p> <p>「関大生としての自覚」に対するプラス評価は、中等部平均 83.8%、高等部平均 73.8%。</p> <p>保護者アンケート「生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組が行われている」に対するプラス評価は、中等部平均 81.6%、高等部平均 87.8%。</p> <p>保護者アンケート「初中高の教育連携が積極的に行われている」に対するプラス評価は、中等部平均 74.0%、高等部平均 80.5%。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>部活動の部員に対する関大への帰属意識と規範意識の指導を進め、他の生徒の模範となる集団に育てるために、定期的に部長会議を開き意識の周知を図る。</p> <p>宿泊研修の内容を学校生活と関大理解に重点をおいたものに改善し、中高1年生の関大理解のベースを高めるとともに、文化祭を中心に行事での関大とのコラボ的な要素を充実させる。</p> <p>保護者に対しては、初等部との連携も前進させ継続的に関大理解を進めていきたい。</p>

<p>ウ 各種学校行事の企画運営において、生徒の自主性発揮の目標を定め、生徒に委ねる部分を学年毎に段階を追って広げる指導</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流行事に係わる生徒の主体的な取組を促す</li> <li>体育祭、文化祭の実行委員会と学校説明会でのスタッフ生徒による行事運営</li> <li>生徒の該当アンケート項目でのプラス評価 70%以上</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>本年度より国際交流行事に対して、生徒の国際交流委員会を立ち上げ、生徒の自主的企画運営による歓迎会を開いた。体育祭・文化祭では生徒会を中心に実行委員会形式で運営し、ルール作りと企画運営の範囲をより生徒側に拡大して委ねた。</p> <p>学校説明会スタッフ生徒による受付・誘導・学校紹介も定着し、立候補者も多く生徒が楽しんで運営にあたっている。</p> <p><b>【達成状況(Check)】 (△)</b></p> <p>「生徒の発達段階に応じた指導に留意し、生徒の成長を促す指導」を行っている教員の回答は 87.3% (昨年度 88.9%)、生徒側は「先生とのコミュニケーションがとれ、その指導に納得している」のプラス評価が、中等部平均 68.4% (↓8.5%) 高等部平均 65.1% (↓3.0%) であった。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>次年度より生徒指導部の業務に生徒の自主性を育てる行事指導を目的として「生徒会・行事担当」主任を配置する。中高 6 年間での行事における生徒の自主性発揮を計画的に再構築する。</p>
---	--

(3) 重点目標③：初等部からの内部進学を円滑に進め、初中高から大学への内部進学指導をより実態に即し充実させる

<p>取組計画及び評価指標(Plan)</p> <p>ア 中 1、2 年の学校生活や学習状況をアンケート等により分析し、学年毎の傾向や課題を把握し改善点を検討する。</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力推移調査データの活用</li> <li>初中連携の行事の実施</li> <li>初中教員による連携会議の実施</li> <li>生徒の該当アンケート項目でのプラス評価 70%以上</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>アンケートからこの二年間の中 1 年 11 月時点での回答を比較分析し、初等部内部進学者説明会において生徒・保護者に説明した。</p> <p>初中連携会議、初中連携の行事(百人一首大会、文化祭招待、初等部研究大会での中等部公開授業等)も定着した。</p> <p>学力推移調査の成績データを内部進学者と一般受験者に分けて、学年毎の傾向や教科別の実態を把握してきた。</p> <p><b>【達成状況(Check)】 (◎)</b></p> <p>初等部 5、6 年保護者対象中等部説明会の内容を改良した。</p> <p>学力推移調査の教科別成績分布データの分析により、英</p>
---	---

	<p>語科において中1年の授業展開を、初等部での英語授業での習熟度を考慮した二分割方式を策定（次年度より実施）。アンケートでは「学校生活は楽しい」のプラス評価が昨年度90.0%、本年度89.1%「入学して良かった」のプラス評価が昨年度90.5%、本年度87.7%。</p> <p>中1・2年保護者に加え初等部5、6年保護者にも呼びかけ、大学新テスト説明会を実施。初等部の保護者に中等部の求める基礎学力と進路指導の関係の理解を図った。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>引き続き学力推移調査のデータを活用し、初等部内部進学者と一般受験での入学者で構成される新しい中等部入学生の集団の共通傾向を探り出し、中等部での学習や生活において高等部への内部進学対策を順次実施する。</p>
<p>イ 中等部3年生の内部進学決定後の教育活動の工夫改善</p> <p>ウ 高等部1年での文理選択、進路別クラス選択における指導の改良</p> <p><b>【評価指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理系希望者に対する綿密な面談の実施</li> <li>生徒の該当アンケート項目でのプラス評価70%以上</li> </ul>	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p><b>【取組状況(Do)】</b></p> <p>中3年11月の内部進学決定から中等部卒業までの間に、社会人の関大OBによる「達人講座」を4回実施した。高1理系志望者には物理・化学が関大への内部進学に求められる点を面談を通じて数度説明し、選択に臨ませた。</p> <p>中3内部進学生に対する高1での習熟別クラス分け制度を発表した。</p> <p><b>【達成状況(Check)】 (○)</b></p> <p>「中大の教育連携がある」に対する中3生のプラス評価は81.0%（昨年比↑5.6%）</p> <p>「関大の情報が増え、大学進学モチベーションが上がった」に対するプラス評価は、高1年で76.9%（↑8.2%）と上がり、特に理系ではほぼ全員が物理・化学を選択することとなった。</p> <p>中3のカナダ研修後に学習態度が下降気味となる傾向に一定の歯止めをかけ、高1での習熟度に応じた授業を行う環境が整いつつある。</p> <p><b>【今後の改善方策(Action)】</b></p> <p>中3の1月から3月を高1へ滑らかに接続させ、内部進学生のアドバンテージを創出させる取組を検討する。</p> <p>高1では授業シラバスを改訂し、習熟度に応じた授業展開を通じて全体の学力の底上げを図る。</p>

## ○ 今年度の教育活動状況

中等部の現状は、昨年度と同様学校生活の満足度は高く、学校生活を楽しく感じている生徒は各学年 80%を超えている。問題行動も極めて少なく、落ち着いた一年間であった。初等部からの内部進学も二年目を迎え、今年も集団の学習成績推移や学校生活状況を注意深く見守ってきた。学校生活面では自己の表現力において初等部出身の生徒は優れており、クラスの中で一般受験入学生に開放感のある刺激を与えている。学習面では初等部出身、一般受験にかかわらず、学習規律（特に家庭学習習慣）を定着させることが、最も肝要となっている。定期考査や模試の得点分布を見ると、入試による 100%外部募集での集団とは異なり、習熟度に少し差がある集団となっている。

高等部の現状は、中等部 1 期生が高等部 3 年生となり中高一貫教育での成長が注目される場所である。本年度も関西大学への内部進学希望者が全員合格を果たし、難関国立大をめざす生徒も高いモチベーションを持って受験に臨んでいる。SGH の取組では、1 年生プログラムは昨年度のものを修正しながら継承し、初めての 2 年生プログラムは全体指導とともに希望者による東京フィールドワークや選抜者による卒業研究の英文サマリー執筆など、特化した取組も順調に進めることができた。11 月の中間報告会ではもう少し生徒が主体的に取り組めるよう、今後の改善点について有益なご意見をいただくことができた。12 月の文部科学省実地検査では本校の取組に概ね及第点をいただき、2 月の SGH 運営指導委員会においても希望者や選抜者による特化した取組を含めて、実施の方向性や達成度について一定の評価をいただいた。

## 3 アンケートの実施状況について

本年度の自己点検・評価活動方針案は、4 月 20 日の自己点検・評価委員会です承され、5 月 7 日の職員会議で発表した。関西大学自己点検・評価委員会併設校部門委員会実施要項の内容に関しては、本校の実情に合わせて以下のような評価活動を実施した。

	項目	中等部・高等部
共通方針	組織面の自己評価	11 月 9 日の自己点検・評価委員会で各主任に対して部署としての自己点検・評価を依頼。 11 月 11 日職員会議において、全教員による「組織面の自己点検・評価」アンケートを実施。
	学校関係者評価	学校関係者評価委員会を開催し、実施している。
	第三者評価	外部評価委員会に委ねる。
相違点	教員個人による自己点検・評価	教員評価制度の活用により、学校運営、学ぶ力の育成、自立・自己実現支援における目標を各教員が設定し、自己申告による評価及び校長面談を実施している。
	児童・生徒の評価	11 月に中等部・高等部ともに「学校生活全般」に関するアンケートに学校評価共通項目を盛り込んで実施。
	保護者の評価	11 月 2 日中高等部の全保護者を対象に実施。

## 4 アンケート結果の分析

### ○ 学校全般

No.1 「学校生活は楽しい」は、中等部平均 89.4%（保護者 88.7%）高等部平均 85.5%（保護者 85.5%）。No.2 「入学の満足度」では、中1年は 86.5%（保護者 84.0%）高1年は 75.6%（保護者 85.0%）が入学して良かったと感じている。卒業の年にあたる中高3年生の満足度は、中3年 86.4%（保護者 87.3%）高3年 78.9%（保護者 80.8%）と、昨年度よりは下がったものの今年度も高等部への内部進学や大学進路が未定の11月段階でも高い数値が得られた。

No.3 私学の独自性「建学の精神や教育方針の理解」においては、中等部生徒の理解が平均 67.3% 高等部生徒は平均 63.4%（中等部保護者 87.5%、高等部保護者 84.6%）と下がっている。学年別に見ると、初等部からの内部進学生が半分を占める中1生で 56.4%と昨年度より 31.5%も下がり、中1年保護者がプラス評価 91.0%（↑3.3%）であることと大きな開きがある。

昨年度の中1生との比較 (右表)を見れば、受験で入学してくる生徒の本校理解が半減していることがわか	プラス評価%	初等部内部進学者	一般受験者
	H26年度中1生	92.6%	86.8%
	H27年度中1生	60.0%	52.5%

る。生徒募集の機会における学校説明の内容を見直していきたい。初等部内部進学者に対しては、毎年5月に5年生保護者、6月に6年生保護者向けの学校説明会を行っているが、児童に対しての体験授業は実施しているものの、中等部に関する説明は行っておらず、初等部での進路指導に任されている現状である。初めての内部進学に対する意識の高さが昨年度入学生の高い数値に現れたとするならば、初中連携の分野をこの面にも広げなければならない。次年度は初等部と改めて協議していきたい。また、中高一貫で育ててきた高3生のプラス評価 62.5%（↑0.2%）も高いものではなく、スクールアイデンティティの形成方法にも検討を加えなければならない。

### ① 学校運営

No.4 の今年度の学校運営に関して、マイナス評価が「会議の効率的な運営」16%、「教員間連携」9.3%、「管理職との相互理解と信頼関係」11.7%と増えてしまった。これは着任前の経験が異なる本校教員集団で、校内人事における校長の権限や校務運営における案件決裁の流れ、会議日程や会議の重層的な関係に対する共通理解が未だできていない現状が原因の一端にある。本校では主任級が集まる校務運営委員会で重要案件を審議し校長が決裁、職員会議でその内容の周知を図っているが、現状の鍋ぶた組織では原案の作成と各部との調整にも時間と労力がかかり、スピード感が求められている学校の現状に合致していない。よって、次年度より部長を新設して業務の担当責任と指示系統の明確化を目的とした組織改編を行うこととした。本校における各部の業務に習熟する機会を設け、近い将来の世代交代にも備えて、敢えて担任と部の兼務を改編のベースとした。

No.5 「情報公開」では、事務室の尽力によって新着情報が迅速にHPにアップされており、教員は 65.9%、中等部保護者平均 72.5%（↑1.5%）、高等部保護者平均 65.3%（↓4.8%）のプラス評価が得られている。しかし、HPの学校紹介部分は生徒募集における有効な武器となっていない現状が認められ、次年度に内容の改善を早急に図る必要がある。

No.6 の危機管理項目では、生徒は 65.0%（↓15.4%）と避難訓練自体に慣れが見受けられるが、

保護者には 83.3% (↓4.1%) と今年も高いプラス評価を得ている。本校独自項目の「初動対応の迅速さと適切さ」は、中等部生徒平均 66.0% (↓11.6%) 保護者 74.5% (↓4.4%)、高等部生徒平均 57.2% (↓8.8%) 保護者 76.2% (↓5.0%) の数値であった。特に、中1生 56.7%、高2生 49.7% (↓15.6%)、高3生 59.6% (↓9.9%) の三学年のプラス評価が低い。生徒指導の本校独自項目「先生とのコミュニケーションが十分とれ、先生の指導に納得している」の回答と照らし合わせると、中1生 55.5%、高2生 61.7% (↑2.5%)、高3生 70.9% (↑1.3%) であるので、今年度の中1生と教員との間のコミュニケーションが十分に図れていないかもしれない。中1保護者の数値もプラス評価 62.0%ではあるが六学年の中で最も低い(中等部平均 65.1%、高等部平均 74.3%) ため、中1保護者の学校に対する要求水準そのものが高いことも考えられる。「個人情報の管理が組織的に行われているか」では、教員 89.3%・中等部保護者 90.7%・高等部保護者 91.9%と、いずれも昨年同様高いプラス評価であった。

## ② 教育内容

No.7～9は学力向上のための組織的な取組に関する項目である。No.7「授業を通じて学力がついていると感じる」は、中1年 67.6% (↓13.7%)、中2年 75.0% (↑2.4%)、中3年 76.5% (↑1.0%)、高1年 74.8% (↑2.0%)、高2年 69.8% (↑11.1%)、高3年 57.0% (↓26.2%) がプラス評価であり、中等部平均 73.0% 高等部平均 67.2% とややポイントを下げた。今年度の高3生は中等部から一貫した初めての6年教育の生徒が全体の四分之三を占めており、これまでの高等部入学生の集団とは全く異なるものである。この学年は中等部1期生として大変手厚く育てられてきたこともあって、概して素直であるが教員側の指導を待つ受け身の姿勢の生徒が多い。この学年のアンケート項目No.7におけるマイナス評価の経年推移は、高1時 32.6%→高2時 41.3%→高3時 43.0%である。高等部進学後に授業の進度が早くなり内容も高度になると、それまでの高等部入学生とは異なり授業への依存度の高い者の多さがマイナス評価を押し上げたと思料する。教員側では学力向上の取組に 80.8% (↓8.1%) とプラス評価をしているが、組織的な取組に対する自己評価はやや下がってきた。小規模校ゆえの校務の兼任や担当科目種類の多さによる業務多忙化が解消されていないため、思うように生徒に十分な時間を割けない現状を表していると思われる。

No.8「スローラーナーへの対応」は、本校の学校評価における課題の一つである。「成績低迷の場合に適切なフォローの仕組みがあるか」に対して、教員は 80.9% (↓3.5%) のプラス評価であったが、生徒保護者の認識との差は下表のように開いたままである。

アンケート項目	中1	中2	中3	高1	高2	高3
「成績低迷時の適切なフォローの仕組みがある」(生徒%)	56.4	71	61.2	49.7	53.7	46.5
前年からの増減 (%)	↓10.9	↑0.2	↑6.8	↓12.2	↓11.6	↓19.8
「習熟度の遅れた生徒へのフォローが十分に行われている」(保護者%)	50	46.0	47.4	50.4	52.5	56.6
前年からの増減 (%)	↑0.5	↓2.0	↓9.9	↓9.6	↑1.7	↓22.3

本年度も中等部では、日常的な課題→点検→確認テストを柱に、家庭学習習慣の定着を最重要課題として、英国数の課題未提出者には居残り学習を実施し、粘り強く取り組んできた。その他、模試後の成績不振者に対する補習授業、定期考査前の教科別指名補充、中等部3年の春休み高等部入学前学力補充によって、学力低迷層の生徒の原因である家庭学習習慣のなさを学校の時間で改善しようとしている。高等部では、自主学習習慣を身につけるための指導に重点を置き、基礎学力の定着に向けた日常的な課題→点検と朝のモジュール小テスト、期末考査前の教科別個別質問会、模試後の学習面談、学習計画表の作成、自習室の開設などを実施してきた。

今年度より生徒の学習実態をつかむために、新たに設けたアンケートの独自項目「課題や提出物にまじめに取り組み、家庭学習習慣は身につけていると思いますか」の数値と「成績低迷の場合に適切なフォローの仕組みがあるか」をクロス集計してみた。

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
「成績低迷時の適切なフォロー」 に対するマイナス評価生徒	48人	31人	43人	74人	69人	76人
「課題や提出物にまじめに取り組 む」に対するマイナス評価生徒	19人	14人	22人	30人	33人	41人
アンケート回答の重複者%	39.6%	45.2%	51.2%	40.5%	47.8%	53.9%
全体の中での重複回答者%	17.1%	13.0%	19.5%	20.1%	22.1%	28.9%

この表で最も注目したい部分が、「成績が低迷時の適切なフォローがない」と感じている生徒と「課題や提出物にまじめに取り組んでいない」生徒との重複率と全体の中での%である。この数値は家庭学習習慣が定着していない生徒の%であり、中等部平均で16.5%、高等部平均で23.7%も存在している。今年度の高等部3年生では30%弱が自主学習習慣の定着に至らなかったという点に、中等部からの学習習慣の指導や自主性の育成に改善を図る必要を強く感じる。一方で、一部の生徒が課された学習にさえ取り組まず学校にフォローがないと考えている点は、個別面談の場でじっくり指導していかなければならない。

本校は関西大学の併設校であり大学受験指導に特化した学校ではないが、高等部2年生からの難関国立大学希望者対象の1クラスには、進路目標の難易度が異なるため、関西大学をめざすクラスとは授業内容も進度も差別化を行っている。このような大学併設校である本校教員は、生徒の「学習に対するモチベーション」と「大学で自主的に学ぶ力」を引き上げることを重視した授業研究に力を注がなければならないと考える。

授業というテーマでは、今年度もアンケート項目「興味や知的好奇心が刺激され、授業内容が分かりやすいか」と教員の意識としての「充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいる」との関連や、No.14「教員研修」の項目にある「本校は教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している」のプラス評価を学校自己点検評価の大切なポイントとして上げたい。

教員アンケート「充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいる」では、89.4%（昨年度91.1%）と今年も高いプラス評価である。現場では校務の多忙化が解消されず日々の時間的な余裕がない中、今年度教員の自主研修に参加する人数も件数も増えている。校長としても「教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための研修」参加には、できるだけ配慮

をしてきた。「校内外の研修体制の充実」に対してのプラス評価は74.4%（↑7.7%）と上がっている。今年度の特徴は、主に理科、社会科、英語科で公開授業を含め授業法の校内研修が持たれ、アクティブラーニング研修への参加が教科を超えて拡大したことにある。理科、数学科、社会科ではアクティブラーニングを授業手法に積極的に取り入れ、その経験が校外でのスキルアップ研修参加につながっている。教員の疲弊を常に留意していきながらも、研修参加を奨励したい。

アンケート項目	中1	中2	中3	高1	高2	高3
興味や知的好奇心が刺激され授業内容が分かりやすい	66.4	72.6	61.8	61.7	65.8	50.7
昨年度との比較 (%)	↓11.2	↑3.5	↓1.3	↓0.2	↑7.1	↓19.1
工夫された授業や実験が取り入れられている (生徒)	85.6	84.1	82.8	60.8	70.5	67.6
昨年度との比較 (%)	↓5.1	↓4.3	↑6.5	↓18.8	↓5.6	↑13.0
教員は指導力向上に努めようとしている (保護者)	70.8	71.3	71.0	81.3	73.6	69.6
昨年度との比較 (%)	↓2.4	↑0.5	↓6.0	↑7.5	↑7.6	↓13.0

次に、生徒指導の面について述べることにする。本校教員は発達段階に応じた成長を促す生徒指導を行っている（プラス評価87.3%）。No.10「生徒の規範意識の向上」では、教員は80.9%（↑3.1%）が取組はできていると回答しているが、下表を見ると中1生の数値が際立って低い。独自項目「先生とのコミュニケーションが十分とれ、先生の指導に納得している」で、中1生のプラス評価が55.5%（中等部平均76.9%）とやはり際立って低いことと関係があるように思われる。問題行動は中高ともに学校全体できわめて少ないが、生徒の中に教員の指導が浸透するためには、精神的にまだ幼さの残る中等部生に対して教員が話す内容や言葉の大切さというものを改めて感じる数値である。

アンケート項目	中1	中2	中3	高1 内部生	高1	高2	高3
規範意識が昨年より向上	58.2	74.6	72.9	76.6	72.1	61.1	64.1
昨年度との比較 (%)	↓23.1	↓6.8	↓0.7	↑9.6	↑9.5	↓1.9	↑0.3
関大生としての自覚	80.9	84.3	72.9	76.6	72.1	73.8	76.1
昨年度との比較 (%)	↓6.0	↓6.0	↓4.3	↓6.9	↓11.5	↓8.1	↓2.9
先生とのコミュニケーション	55.5	77.6	72.0	72.1	62.8	61.7	70.9
昨年度との比較 (%)	↓34.2	↓0.3	↑8.8	↑5.0	↑3.6	↓7.9	↓4.7
先生とのコミュニケーション (保護者)	62.0	67.0	66.7	/	73.7	70.5	79.1
昨年度との比較 (%)	↓12.2	↑4.5	↓7.8	/	↑3.3	↑5.3	↓2.7

学校が落ち着いているか、生徒にとって安心できる環境となっているかの指標に、「いじめへの対応」がある。本校では、人権教育部を中心に年間3回のいじめアンケートを実施し、いじめの防止と早期発見、迅速な対応に取り組んでいる。教員のこの問題に対する意識は100%と高い。この教員の動きに対するプラス評価は、中等部生徒平均67%（↑2.1%）、高等部生徒平均60.3%（↓1.3%）と些か醒めた値であるが、保護者は中等部平均75.2%（↓5.2%）、高等部平均81.6%（↓3.1%）と評価している。現状としては、生徒の人権意識が十分高まるまでには至っておらず、保護者アンケート「子どもの日常的な言動に、人権意識が見られるようになった」では、中等部平均59.1%（↓2.0%）、高等部平均68.9%（↑3.1%）にとどまっている。

最後に、「学校間連携」についてまとめる。大学の併設校として、また初中高を一貫する内部進学制度を持つ本校においては、学校間連携のあり方が学校の特色作りにおいて重要な要素となる。開校から6年が経ち、中等部からの内部進学生が高等部の全ての学年で四分之三を占め、初等部からの内部進学が2年目を迎えた今年度、一貫教育の実を上げるためには年々教育連携に改良を加えなければならない。現状では、「中高と関西大学との連携」と「初等部と中等部との連携」の2つの取組がある。下表を見ると、初等部からの内部進学生が半数を占める中1、2生と中3以上の学年とでは、生徒も保護者も連携の相手先に対する認識が異なるようである。つまり、中1、2生は初等部との連携を回答の要素に加えているが、中3以上の生徒・保護者は関西大学との連携のみを想定している可能性も考えられる。

アンケート項目	中1	中2	中3	高1	高2	高3
初中高大の教育連携がある(生徒)	72.9	78.6	81.0	83.6	72.3	64.0
昨年度との比較(%)	↓1.9	↓3.7	↑5.6	↑5.4	↑2.7	↓8.3
初中高大の教育連携が積極的に行われている(保護者)	75.0	61.8	84.3	85.6	82.3	73.1
昨年度との比較(%)	↑14.2	↓24.7	↓4.8	↑1.0	↑13.1	↓5.1

中等部と関西大学との教育連携は、関大13学部からの特別授業を中等部の3年間で配当し、学問の面白さや学部の学問紹介を中学生に触れさせる目的で行われ、総合的な学習の時間の留学生来校など一定のプログラムは整った感がある。高等部ではSGHの取組を核にグローバルオリエンテーションと題した国際部による4月講演や、課題研究での系列別指導に外国語学部・商学部・社会学部等から教員を派遣していただいている。また、体育祭での大学応援団からの演舞指導や総合関関戦への生徒観戦によって関大への帰属意識を養う機会が増え、積極的に大学の姿を学校行事に投影してきた。

しかし、初等部と中等部との連携は、根本的に学校の教育制度が異なるだけでなく、進路指導に関する認識も初中間で異なるため、連携会議の継続及び1月の百人一首大会や総合的な学習の時間での一部の交流に限られている現状である。初等部からの内部進学を円滑に進める上で、入試広報部が学校説明会を初等部5、6年生保護者に行っているが、今年度の中1生で本校の教育方針の理解が56.4%と低いことを深刻に受け止め、生徒募集の観点から初中連携の見直しを始めた。

## 5 学校関係者評価委員会からの評価結果

### (1) 自己評価の結果を受けて

#### ア 重点目標①【初中高一貫教育の後半を担い、確かな学力を養うことによって、各自の進路希望を実現させる】について

- ・家庭学習については、生徒の自覚と家庭での保護者の責任と役割に負うところが大きいと感じている。保護者は、初等部・中等部・高等部・大学へと進学させるなかで、併設校としての連続性を求めている。各校の特色を早い段階で保護者に伝えるとともに、家庭の役割を理解してもらうようにすべきではないか。
- ・スローラーナーの対応については、厳しい自己評価をしている生徒と自分でも取組ができていない生徒がいるため、生徒の状況を教員間で理解する必要がある。特に中等部1・2年生の意識として、宿題をやらなければならないものと思っていない。
- ・校長として、中学校入学時に学校は勉強するところだと必ず伝えている。また、教師には、学習の本質は、一人でやるものであって、学校は一人でできないことをやる場所であることを伝えている。
- ・学力は家庭学習で定着する、一人で学習することで新しいやり方を発見できる。高槻市の公立小中学校では家庭学習の手引きを作成し、全児童・生徒に配付予定である。学習の本質をこどもが理解することが大切である。高槻市の公立校も様々な取組をされているので、情報提供をお願いしてはどうか。
- ・中等部生には成長を促し、自分の問題として自覚させることも必要である。保護者からの要望については、宿題の保護者宛のメール送信は中等部1年生の最初のみとするなどグラデーションで対応することもできる。

#### イ 重点目標②【関西大学の併設校出身であることにプライドを持ち、国際的な視野と思考力・探究力を備えた「関西大学への推薦にふさわしい人物」の育成】について

- ・保護者のひとりとして、様々な取組を進めていただいていると感謝している。
- ・高等部生徒のフィギアスケートでの活躍は、保護者、同級生、世間も注目しており、総合的に見て、学校の良い雰囲気を作っていくものであると認識している。
- ・関西大学への帰属意識を高める取組については、既に大学教員が中等部・高等部で特別講義を実施し、また、中等部生が千里山キャンパスでのフィールドワークや関関戦観戦などを行っている。これからの取組を継続することにより、帰属意識は高まっていくと思われる。
- ・慶応義塾大学では、各体育会に高校担当部員を置き、大学生が高校生を指導している。高等部から大学側に要望してはどうか。愛校心を醸成する仕掛けは、たくさんある。やらなければ、繋がりがなくなり、バラバラになる。
- ・昔の世代は、児童・生徒数も多く、足の引っ張り合いが常であったが、近年のこどもたちは、総じて優しく、共感や手助けに感度が高く、人を助けることの労力を厭わない世代である。そのような特性を生かす仕掛けを内部で検討してはどうか。
- ・帰属意識については、公立校ではほとんど意識しない。特に在校時は全く意識せず、卒業後、数十年経過して、やっと意識するようになる。初等部・中等部・高等部は、まだ開校

間もないため、短期間で成果を求めるのは難しいと思われる。今後、学校の歴史が積み重なれば学校自体も成熟し、それに伴い帰属意識も自然に醸成されるものである。

- ・学校の文化はすぐには形成されない。もう少し、学校の歴史や伝統を積み重ねる必要がある。今後、卒業生が活躍し、いずれそのようになると確信を持ちながら、今できることをやっていくしかない。

### ウ 重点目標③【初等部からの内部進学を円滑に進め、初中高から大学への内部進学指導をより実態に即し充実させる】について

- ・小中一貫校の場合、小学校から中学校進学に関して、児童・生徒のモチベーションを維持させることが大切と思われる。高槻市でも、施設一体型の小中一貫校の開設を予定している。小中一貫校での教育では、系統性と連続性が難しいと思われる。
- ・同じ建物内に初等部と中等部があるメリットを生かして、内実のある形で具体的な取組を進めて欲しい。初等部と中等部において、行事や学習、会議など様々な場面で、教育上の学びの連続性、系統性を意識した取組を進めて欲しい。
- ・教科の担任であれば、担当教科の連続性や系統性を理解していると思われる。教員の業務は増えるが、教育を受ける側の立場からすれば、連続性や系統性があることは大きなメリットである。
- ・初等部・中等部・高等部は、学校規模が小さいことを生かして、敷居や壁をなくし、相互に行き来できるようにすることが大切である。一人っ子が増えているなかで、異年齢間での触れ合うことのメリットは大きい。リスクもあるが、関わることの意味合いを児童・生徒に理解させ、年少者に悪影響を及ぼすことがないように注意していけば良い。

### (2) アンケート結果について

- ・家庭学習状況の把握に関するアンケート結果の満足度は高い。評価の低い1～2割程度の生徒・保護者をどう上げていくかが問題となる。
- ・小規模校であるため、その年によって数値の上下は想定される。単年度での数値の変化に気を使う必要はないと思われる。数年単位で経年的に数値を追うようにすべきである。
- ・アンケート結果については、年によりシャープな変化を示しているものもあり、担任団の方針に左右されている場合もあると推測される。基調が壊れることは問題だが、経年的な経過を見ていくことが大切である。
- ・校長を中心に組織として課題に取り組んでおり、アンケート結果の数値が低いからといって、一から全てをやり直すことはできない。アンケート結果については、改善のための参考情報として位置付けて活用すべきである。

### [学校関係者評価委員会委員名簿]

氏名	所属及び役職
上道 小太郎	高槻市中学校校長会 会長
長尾 忠浩	関西大学中等部・高等部教育後援会 会長
芝井 敬司	関西大学文学部 教授
鵜飼 昌男	関西大学中等部・高等部 校長

## 6 校長の意見書

初等部から中等部または中等部から高等部への内部進学が集団の要素となった今年度は、本校の将来像を見極める重要な年であると認識している。学校評価アンケートのデータは、昨年度から引き続き多くの項目でプラス評価のポイントが下がってきていることを真摯に受け止めながら、教育活動と学校経営に関して次年度からの改革の焦点を定めることができたと考えている。内部進学制度がもたらす生徒の育ち度を教員間で比較検討することができる事象も増えたことで、初等部との連携のあり方や生徒の自主性育成のための行事活用等、いくつかの改善すべき点が明らかになった。以下にそれらを中心として校長としての意見を述べたい。

入口と出口に内部進学制度の影響を最も受ける中等部では、まず1学年の本校の教育方針に対する理解が、例年になくマイナス評価を示した点を深刻に受け止めたい。初等部との連携のあり方は、中等部への内部進学を既定路線のように考え進学指導を初等部に任せるのではなく、学校関係者評価委員会のご意見にあるとおり、中等部側から初等部生のモチベーションを上げる働きかけが必要である。次年度からは内部進学生が持つアドバンテージを生かせる方向で、中等部1年生の英語のクラス編成に改良を加え、学びの連続性・系統性の内実を上げるとともに、児童と保護者に対する中等部高等部理解を進める取組を行いたい。

次に、学習に関する項目で生徒のプラス評価が減少したことについて、家庭学習習慣の定着度が教員側の想定より低い現状にあり、報告でも触れたが中等部からの内部進学1期生（現高3生）を顕著な例として、学習活動に対して受け身の姿勢の者が多いことに因ると思われる。家庭学習習慣の定着を中等部学習指導の重点に据えてきたが、一人でどのように学習するのかその方法から指導しなければならない実態も見えてきた。6年一貫教育での中等部1、2年時が学習習慣の基礎形成と位置づけ、日常的な課題・点検・確認のサイクルに加えて、宿題に頼らない一人学習の方法指導を中等部生に行っていきたい。保護者には保護者集会等の機会を通じて、家庭学習習慣のない生徒と成績との関連性など、アンケート結果から実態を示して家庭で担う役割を具体的に説明していきたい。

三つめに、次年度の組織では近い将来の世代交代に備えて、分掌業務の継承を最優先とした組織に改め、教員全員を分掌に配属することとした。本校教員の多忙な現状が疲弊感をもたらしてきたが、年間行事予定の検討において代休日を可能な限り確保し、高等部の普通科カリキュラム検討においては、進路希望先の違いに応じた履修単位の差別化を図り、関大との連携に放課後も含めて時間的な余裕を持たせることとした。組織改編によって学校の意志決定にスピード感を持たせ、本校の課題に可及的速やかな対応をしていきたい。

今後、内部進学生の育ちが本校の将来的な発展を担うと考えるため、大学入試改革と連動する学習指導要領の動向に対応した授業改革に向けて、教員が自己研鑽できる時間的な余裕を作り出すことに留意した学校運営に努めなければならないと考えている。

関西大学中等部・高等部

校長 鵜飼昌男

分類	NO	評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成27年度実数					平成27年度%集計				
		大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	A	B	C	D	
学校全般	1			本校の生徒は充実した学校生活を楽しんでいる。	教員	2.1	8	35	3	0	17.4%	76.1%	6.5%	0.0%	
				学校生活は楽しいと感じていますか。	中1生	2.4	61	35	11	4	55.0%	31.5%	9.9%	3.6%	
					中2生	2.5	63	36	9	0	58.3%	33.3%	8.3%	0.0%	
					中3生	2.4	62	38	8	3	55.9%	34.2%	7.2%	2.7%	
					高1生	2.2	67	52	21	6	45.9%	35.6%	14.4%	4.1%	
					高2生	2.2	52	77	14	6	34.9%	51.7%	9.4%	4.0%	
					高3生	2.1	53	59	19	9	37.9%	42.1%	13.6%	6.4%	
				ご子女は生き生きとした学校生活を送っていると思われませんか。	中1保護者	2.4	49	40	9	2	49.0%	40.0%	9.0%	2.0%	
					中2保護者	2.3	38	38	8	4	43.2%	43.2%	9.1%	4.5%	
					中3保護者	2.3	39	47	6	3	41.1%	49.5%	6.3%	3.2%	
					中合計	2.3	126	125	23	9	44.5%	44.2%	8.1%	3.2%	
					高1保護者	2.3	61	58	10	4	45.9%	43.6%	7.5%	3.0%	
					高2保護者	2.2	56	62	18	3	40.3%	44.6%	12.9%	2.2%	
					高3保護者	2.2	59	50	20	4	44.4%	37.6%	15.0%	3.0%	
	高合計	2.3	176		170	48	11	43.5%	42.0%	11.9%	2.7%				
	2				本校に入学した生徒・保護者の満足度は高い。	教員	2.0	4	38	5	0	8.5%	80.9%	10.6%	0.0%
					この学校に入学して良かったと思いますか。	中1生	2.4	60	36	12	3	54.1%	32.4%	10.8%	2.7%
						中2生	2.3	46	50	11	1	42.6%	46.3%	10.2%	0.9%
						中3生	2.2	42	53	9	6	38.2%	48.2%	8.2%	5.5%
						高1生	2.0	44	68	28	8	29.7%	45.9%	18.9%	5.4%
高2生						1.9	30	83	22	13	20.3%	56.1%	14.9%	8.8%	
高3生						2.0	40	72	15	15	28.2%	50.7%	10.6%	10.6%	
保護者として、この学校に入学させて良かったと思われませんか。					中1保護者	2.3	48	36	14	2	48.0%	36.0%	14.0%	2.0%	
					中2保護者	2.1	37	32	14	5	42.0%	36.4%	15.9%	5.7%	
					中3保護者	2.2	37	46	8	4	38.9%	48.4%	8.4%	4.2%	
					中合計	2.2	122	114	36	11	43.1%	40.3%	12.7%	3.9%	
					高1保護者	2.2	55	58	16	4	41.4%	43.6%	12.0%	3.0%	
					高2保護者	2.2	50	65	17	6	36.2%	47.1%	12.3%	4.3%	
					高3保護者	2.1	53	56	18	8	39.3%	41.5%	13.3%	5.9%	
					高合計	2.2	158	179	51	18	38.9%	44.1%	12.6%	4.4%	

分類	NO	評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成27年度実数					平成27年度%集計				
		大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	A	B	C	D	
学校運営	3	私学の独自性	教育方針・教育目標	本校の建学の精神、中長期ビジョン、教育方針が教職員・保護者など、関係者に浸透している。	教員	1.5	1	26	17	3	2.1%	55.3%	36.2%	6.4%	
				本校の教育方針を理解していますか。	中1生	1.6	17	45	33	15	15.5%	40.9%	30.0%	13.6%	
					中2生	1.9	22	54	23	7	20.8%	50.9%	21.7%	6.6%	
					中3生	1.9	26	56	21	8	23.4%	50.5%	18.9%	7.2%	
					高1生	1.7	21	74	38	14	14.3%	50.3%	25.9%	9.5%	
					高2生	1.6	15	79	38	17	10.1%	53.0%	25.5%	11.4%	
					高3生	1.7	28	60	35	18	19.9%	42.6%	24.8%	12.8%	
					中合計	2.2	92	156	31	4	32.5%	55.1%	11.0%	1.4%	
				本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。	中1保護者	2.3	34	57	9	0	34.0%	57.0%	9.0%	0.0%	
					中2保護者	2.1	28	46	12	3	31.5%	51.7%	13.5%	3.4%	
					中3保護者	2.2	30	53	10	1	31.9%	56.4%	10.6%	1.1%	
					高1保護者	2.2	44	73	16	1	32.8%	54.5%	11.9%	0.7%	
					高2保護者	2.1	38	80	19	2	27.3%	57.6%	13.7%	1.4%	
					高3保護者	2.1	36	74	21	4	26.7%	54.8%	15.6%	3.0%	
					高合計	2.1	118	227	56	7	28.9%	55.6%	13.7%	1.7%	
	4	1	教職員連携	会議の有効性	職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。	教員	1.7	5	24	17	1	10.6%	51.1%	36.2%	2.1%
		2		教員間連携	教員間で相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと教育活動を行っている。	教員	1.7	4	26	16	1	8.5%	55.3%	34.0%	2.1%
3		管理職と教員との連携		管理職と教員との間で相互理解と信頼関係を築いている。	教員	1.6	5	24	14	4	10.6%	51.1%	29.8%	8.5%	
4		教員と事務職員との連携		教員と事務職員とで相互理解を図るとともに、その信頼関係のもと学校運営を行っている。	教員	2.3	14	31	2	0	29.8%	66.0%	4.3%	0.0%	

分類	NO		評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成27年度実数					平成27年度%集計			
			大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	A	B	C	D
学校運営	5		情報公開	学校だより、学級通信等の発行	生徒や保護者に対して、きめの細かい情報提供に心がけ、学校での指導に対する理解を深めている。	教員	1.8	9	22	14	2	19.1%	46.8%	29.8%	4.3%
					中1保護者	2.0	36	40	14	9	36.4%	40.4%	14.1%	9.1%	
					中2保護者	1.7	14	49	14	12	15.7%	55.1%	15.7%	13.5%	
					中3保護者	1.9	20	47	24	5	20.8%	49.0%	25.0%	5.2%	
					中合計	1.9	70	136	52	26	24.6%	47.9%	18.3%	9.2%	
					高1保護者	1.8	30	60	32	12	22.4%	44.8%	23.9%	9.0%	
					高2保護者	1.8	24	68	41	6	17.3%	48.9%	29.5%	4.3%	
					高3保護者	1.8	28	57	41	10	20.6%	41.9%	30.1%	7.4%	
					高合計	1.8	82	185	114	28	20.0%	45.2%	27.9%	6.8%	
					高合計	1.8	82	185	114	28	20.0%	45.2%	27.9%	6.8%	
	6	1	危機管理	避難訓練や安全対策	警察や消防署と連携し、避難訓練や安全講習会を開くなどの安全対策を講じている。	教員	2.1	13	27	7	0	27.7%	57.4%	14.9%	0.0%
					事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すればよいのか、指導を受けていますか。	中1生	1.6	26	41	21	23	23.4%	36.9%	18.9%	20.7%
						中2生	2.0	34	51	16	7	31.5%	47.2%	14.8%	6.5%
						中3生	1.9	28	47	28	8	25.2%	42.3%	25.2%	7.2%
						高1生	1.6	21	61	47	19	14.2%	41.2%	31.8%	12.8%
						高2生	1.7	24	70	45	10	16.1%	47.0%	30.2%	6.7%
						高3生	1.8	34	58	35	15	23.9%	40.8%	24.6%	10.6%
					避難訓練や安全講習など積極的な対策を講じていると思われますか。	中1保護者	2.1	30	51	15	1	30.9%	52.6%	15.5%	1.0%
						中2保護者	2.0	22	43	21	2	25.0%	48.9%	23.9%	2.3%
						中3保護者	2.1	27	56	11	1	28.4%	58.9%	11.6%	1.1%
中合計	2.1	79	150	47		4	28.2%	53.6%	16.8%	1.4%					
高1保護者	2.1	48	61	18	6	36.1%	45.9%	13.5%	4.5%						
高2保護者	2.1	41	76	21	0	29.7%	55.1%	15.2%	0.0%						
高3保護者	2.2	47	72	11	5	34.8%	53.3%	8.1%	3.7%						
高合計	2.2	136	209	50	11	33.5%	51.5%	12.3%	2.7%						



分類	NO		評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成27年度実数					平成27年度%集計			
			大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	A	B	C	D
学校運営	6	4	地域との連携	地域連携の推進	近隣地域において、本校の教育活動に理解を得るための取り組みや地域人材の活用を行っている。	教員	1.4	3	18	21	5	6.4%	38.3%	44.7%	10.6%
					学校周辺、居住地域からの理解を得て、教育活動が行われていると思いますか。	中1保護者	2.3	39	51	5	4	39.4%	51.5%	5.1%	4.0%
						中2保護者	2.2	28	49	10	2	31.5%	55.1%	11.2%	2.2%
						中3保護者	2.3	35	56	5	0	36.5%	58.3%	5.2%	0.0%
						中合計	2.2	102	156	20	6	35.9%	54.9%	7.0%	2.1%
						高1保護者	2.3	49	71	11	2	36.8%	53.4%	8.3%	1.5%
						高2保護者	2.2	44	85	9	1	31.7%	61.2%	6.5%	0.7%
						高3保護者	2.2	49	73	12	2	36.0%	53.7%	8.8%	1.5%
						高合計	2.2	142	229	32	5	34.8%	56.1%	7.8%	1.2%
教育内容	7	1	知育(学習指導)	学力向上のための組織的な取り組み	学力向上のための組織的な取組を行っている。	教員	1.9	8	30	7	2	17.0%	63.8%	14.9%	4.3%
					授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか。	中1生	1.7	17	58	27	9	15.3%	52.3%	24.3%	8.1%
						中2生	1.9	22	59	24	3	20.4%	54.6%	22.2%	2.8%
						中3生	2.0	32	53	21	5	28.8%	47.7%	18.9%	4.5%
						高1生	1.9	28	82	30	7	19.0%	55.8%	20.4%	4.8%
						高2生	1.8	22	82	33	12	14.8%	55.0%	22.1%	8.1%
						高3生	1.6	22	59	40	21	15.5%	41.5%	28.2%	14.8%
					本校は学力向上のために組織的な取組を行っていると思われませんか。	中1保護者	1.9	26	44	24	5	26.3%	44.4%	24.2%	5.1%
						中2保護者	1.8	22	33	26	7	25.0%	37.5%	29.5%	8.0%
						中3保護者	2.0	25	45	21	4	26.3%	47.4%	22.1%	4.2%
						中合計	1.9	73	122	71	16	25.9%	43.3%	25.2%	5.7%
						高1保護者	2.0	41	59	28	6	30.6%	44.0%	20.9%	4.5%
						高2保護者	1.9	32	71	30	6	23.0%	51.1%	21.6%	4.3%
						高3保護者	1.9	36	64	27	9	26.5%	47.1%	19.9%	6.6%
	高合計	2.0	109	194	85	21	26.7%	47.4%	20.8%	5.1%					

分類	NO	評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成27年度実数					平成27年度%集計			
		大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	A	B	C	D
教育内容	7	知育(学習指導)	学力向上のための組織的な取り組み	模擬試験等を活用して学習状況を計画的に把握し、学年集団・個人への効果的な指導体制がとられている。	教員	2.2	11	33	3	0	23.4%	70.2%	6.4%	0.0%
				模擬試験後の面談等によって、自らの学力分析ができ、その後の学習に役立っていますか。	中1生	1.8	25	46	27	11	22.9%	42.2%	24.8%	10.1%
					中2生	1.9	23	58	25	2	21.3%	53.7%	23.1%	1.9%
					中3生	1.9	20	63	22	6	18.0%	56.8%	19.8%	5.4%
					高1生	1.9	30	76	38	4	20.3%	51.4%	25.7%	2.7%
					高2生	1.8	27	78	32	12	18.1%	52.3%	21.5%	8.1%
					高3生	1.8	28	71	28	15	19.7%	50.0%	19.7%	10.6%
				学校は生徒個々の学力とその推移を的確に把握していると思われますか。	中1保護者	2.0	29	48	18	4	29.3%	48.5%	18.2%	4.0%
					中2保護者	1.9	18	49	14	7	20.5%	55.7%	15.9%	8.0%
					中3保護者	2.0	24	53	17	2	25.0%	55.2%	17.7%	2.1%
					中合計	2.0	71	150	49	13	25.1%	53.0%	17.3%	4.6%
					高1保護者	2.1	41	68	18	6	30.8%	51.1%	13.5%	4.5%
	高2保護者	2.1	36		81	16	6	25.9%	58.3%	11.5%	4.3%			
					高3保護者	2.0	39	60	29	8	28.7%	44.1%	21.3%	5.9%
					高合計	2.0	116	209	63	20	28.4%	51.2%	15.4%	4.9%
	3	知育(学習指導)	学力向上のための組織的な取り組み	進路学習とタイアップした大学受験をめざした補習を計画的に実施している。	教員	1.8	6	27	11	3	12.8%	57.4%	23.4%	6.4%
				進路・進学を意識した内容の補習が行われていると思いますか。	中1生	1.5	12	47	33	19	10.8%	42.3%	29.7%	17.1%
					中2生	1.8	22	47	27	10	20.8%	44.3%	25.5%	9.4%
					中3生	1.8	19	55	28	9	17.1%	49.5%	25.2%	8.1%
					高1生	1.7	23	68	38	18	15.6%	46.3%	25.9%	12.2%
					高2生	1.7	27	72	23	24	18.5%	49.3%	15.8%	16.4%
					高3生	1.6	24	63	31	24	16.9%	44.4%	21.8%	16.9%
				電子黒板やPCなど充実したICT環境を活用し、授業内容の工夫に取り組んでいる。	教員	2.2	13	29	5	0	27.7%	61.7%	10.6%	0.0%
					興味や知的な好奇心が刺激され、授業内容が分かりやすいと感じますか。	中1生	1.7	20	53	24	13	18.2%	48.2%	21.8%
中2生						1.9	26	51	25	4	24.5%	48.1%	23.6%	3.8%
中3生						1.7	21	47	29	13	19.1%	42.7%	26.4%	11.8%
高1生						1.7	21	69	43	13	14.4%	47.3%	29.5%	8.9%
高2生	1.6	14	82			27	23	9.6%	56.2%	18.5%	15.8%			
高3生	1.5	17	55	47		23	12.0%	38.7%	33.1%	16.2%				

分類	NO	評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成27年度実数					平成27年度%集計			
		大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	A	B	C	D
教育内容	8	知育(学習指導)	スローラーナーへの対応	学力不足生徒へのフォローのために補習授業や個人指導を行っている。	教員	1.9	7	31	8	1	14.9%	66.0%	17.0%	2.1%
				成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。	中1生	1.5	12	50	25	23	10.9%	45.5%	22.7%	20.9%
					中2生	1.9	23	53	26	5	21.5%	49.5%	24.3%	4.7%
					中3生	1.7	21	47	32	11	18.9%	42.3%	28.8%	9.9%
					高1生	1.5	20	53	52	22	13.6%	36.1%	35.4%	15.0%
					高2生	1.4	16	64	33	36	10.7%	43.0%	22.1%	24.2%
					高3生	1.4	21	45	49	27	14.8%	31.7%	34.5%	19.0%
				課題や提出物にまじめに取り組み、家庭学習習慣は身につけていると思いますか。	中1生	1.9	36	35	30	10	32.4%	31.5%	27.0%	9.0%
					中2生	1.9	36	37	22	12	33.6%	34.6%	20.6%	11.2%
					中3生	1.8	23	51	30	7	20.7%	45.9%	27.0%	6.3%
					高1生	1.9	41	60	35	12	27.7%	40.5%	23.6%	8.1%
				本校では、習熟度の遅れた生徒へのフォローや補習授業の取組が十分に行われていると思われませんか。	高2生	1.7	20	78	36	14	13.5%	52.7%	24.3%	9.5%
					高3生	1.8	28	67	33	14	19.7%	47.2%	23.2%	9.9%
					中1保護者	1.5	19	31	29	21	19.0%	31.0%	29.0%	21.0%
					中2保護者	1.3	6	35	28	20	6.7%	39.3%	31.5%	22.5%
					中3保護者	1.4	11	34	36	14	11.6%	35.8%	37.9%	14.7%
中合計	1.4	36	100		93	55	12.7%	35.2%	32.7%	19.4%				
高1保護者	1.4	11	55		44	21	8.4%	42.0%	33.6%	16.0%				
高2保護者	1.5	16	57	48	18	11.5%	41.0%	34.5%	12.9%					
高3保護者	1.6	26	51	40	19	19.1%	37.5%	29.4%	14.0%					
高合計	1.5	53	163	132	58	13.1%	40.1%	32.5%	14.3%					

分類	NO	評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成27年度実数					平成27年度%集計			
		大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	A	B	C	D
教育内容	9	知育(学習指導)	保護者との連携	学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。	教員	2.3	17	28	2	0	36.2%	59.6%	4.3%	0.0%
				保護者に対して、学校は毅然とした対応をとっている。	教員	2.1	11	30	6	0	23.4%	63.8%	12.8%	0.0%
				自分の学習状況を保護者も把握していると思いますか。	中1生	2.2	47	44	16	4	42.3%	39.6%	14.4%	3.6%
					中2生	2.2	46	41	16	5	42.6%	38.0%	14.8%	4.6%
					中3生	2.2	50	42	14	5	45.0%	37.8%	12.6%	4.5%
					高1生	2.0	51	62	26	9	34.5%	41.9%	17.6%	6.1%
					高2生	1.9	41	72	23	13	27.5%	48.3%	15.4%	8.7%
					高3生	1.8	34	61	36	11	23.9%	43.0%	25.4%	7.7%
				お子さまの生活状況や家庭学習の様子を把握されていますか。	中1保護者	2.1	30	52	17	1	30.0%	52.0%	17.0%	1.0%
					中2保護者	2.1	21	51	13	1	24.4%	59.3%	15.1%	1.2%
					中3保護者	2.1	27	51	17	0	28.4%	53.7%	17.9%	0.0%
					中合計	2.1	78	154	47	2	27.8%	54.8%	16.7%	0.7%
					高1保護者	2.1	33	80	16	5	24.6%	59.7%	11.9%	3.7%
					高2保護者	2.1	40	81	14	4	28.8%	58.3%	10.1%	2.9%
					高3保護者	2.2	43	73	16	2	32.1%	54.5%	11.9%	1.5%
					高合計	2.1	116	234	46	11	28.5%	57.5%	11.3%	2.7%
				学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思いますか。	中1保護者	1.9	23	51	20	6	23.0%	51.0%	20.0%	6.0%
					中2保護者	1.7	16	37	23	11	18.4%	42.5%	26.4%	12.6%
					中3保護者	1.9	22	48	23	3	22.9%	50.0%	24.0%	3.1%
					中合計	1.8	61	136	66	20	21.6%	48.1%	23.3%	7.1%
高1保護者	1.9	36	63		26	9	26.9%	47.0%	19.4%	6.7%				
高2保護者	1.9	33	67		35	3	23.9%	48.6%	25.4%	2.2%				
高3保護者	1.9	34	64		26	11	25.2%	47.4%	19.3%	8.1%				
高合計	1.9	103	194		87	23	25.3%	47.7%	21.4%	5.7%				

分類	NO		評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成27年度実数					平成27年度%集計			
			大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	A	B	C	D
教育内容	10	1	徳育(生活指導)	社会規範の理解とモラルの醸成	生徒に学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組を行っている。	教員	1.9	7	31	8	1	14.9%	66.0%	17.0%	2.1%
					生徒としてのマナーやモラル向上のための指導によって、規範意識が昨年より高まったと思いますか。	中1生	1.7	28	36	30	16	25.5%	32.7%	27.3%	14.5%
						中2生	2.0	27	52	23	4	25.5%	49.1%	21.7%	3.8%
						中3生	1.9	28	53	22	8	25.2%	47.7%	19.8%	7.2%
						高1生	1.8	25	81	31	10	17.0%	55.1%	21.1%	6.8%
						高2生	1.6	14	77	42	16	9.4%	51.7%	28.2%	10.7%
						高3生	1.7	28	63	35	16	19.7%	44.4%	24.6%	11.3%
					登下校時を中心に、関大生としての自覚をもって行動していますか。	中1生	2.0	33	56	14	7	30.0%	50.9%	12.7%	6.4%
						中2生	2.1	33	58	14	3	30.6%	53.7%	13.0%	2.8%
						中3生	2.1	32	62	12	3	29.4%	56.9%	11.0%	2.8%
						高1生	1.9	34	72	34	8	23.0%	48.6%	23.0%	5.4%
						高2生	1.9	33	77	28	11	22.1%	51.7%	18.8%	7.4%
						高3生	2.0	39	69	27	7	27.5%	48.6%	19.0%	4.9%
					学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取組が行われていると思われませんか。	中1保護者	2.1	32	49	16	2	32.3%	49.5%	16.2%	2.0%
						中2保護者	1.8	22	39	19	9	24.7%	43.8%	21.3%	10.1%
						中3保護者	2.2	31	58	4	2	32.6%	61.1%	4.2%	2.1%
						中合計	2.1	85	146	39	13	30.0%	51.6%	13.8%	4.6%
高1保護者	2.2	47	67	16		3	35.3%	50.4%	12.0%	2.3%					
高2保護者	2.1	37	85	16		1	26.6%	61.2%	11.5%	0.7%					
高3保護者	2.3	55	66	12		2	40.7%	48.9%	8.9%	1.5%					
高合計	2.2	139	218	44		6	34.2%	53.6%	10.8%	1.5%					

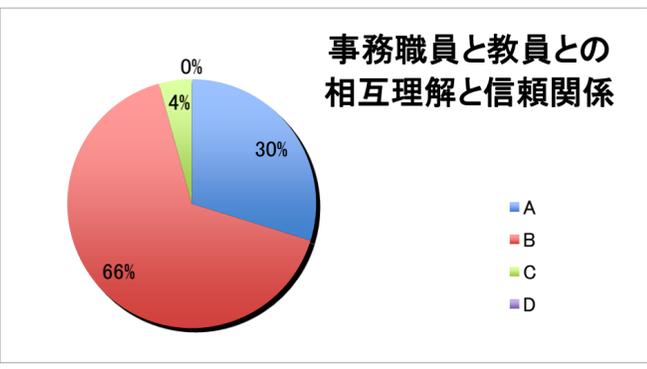
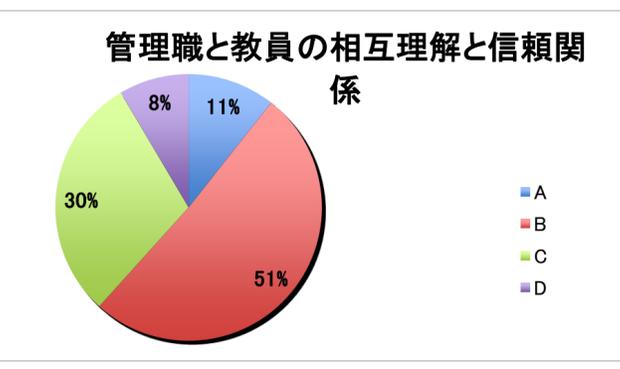
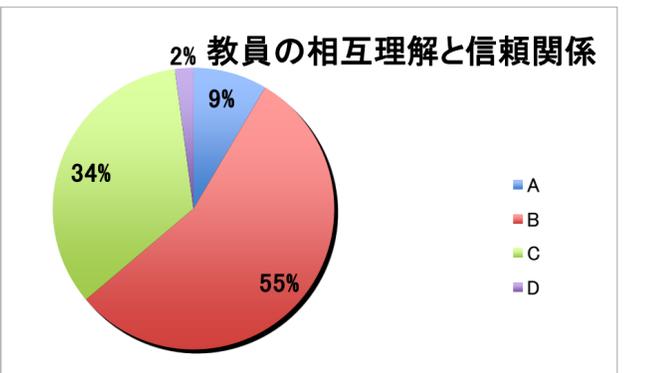
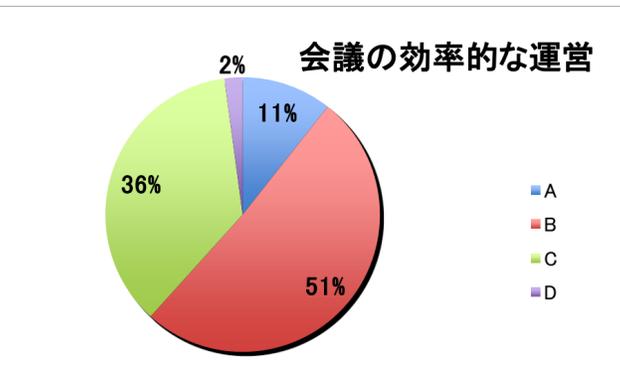
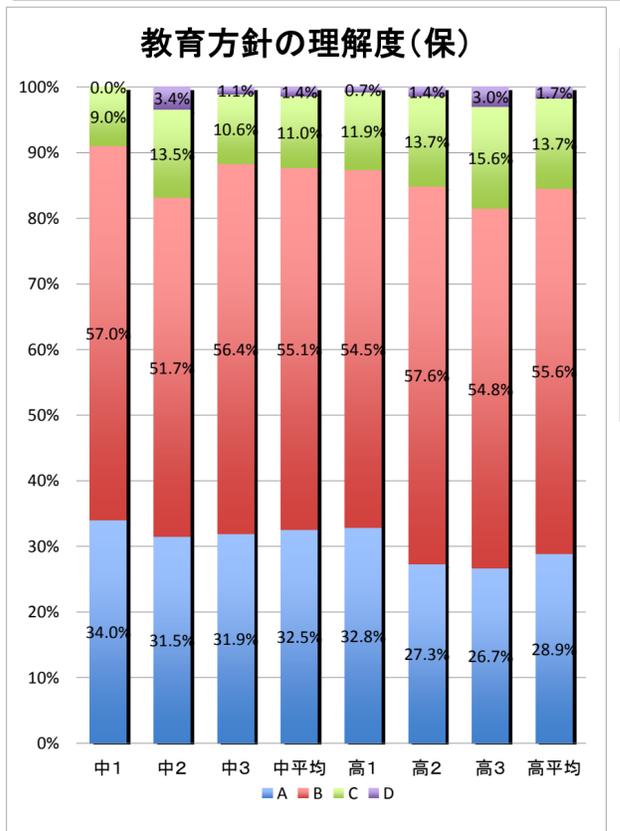
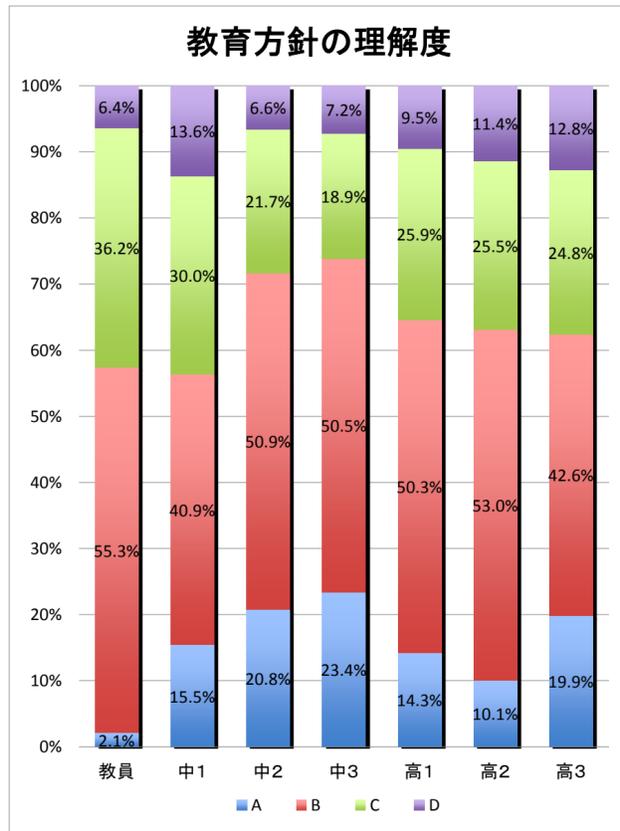
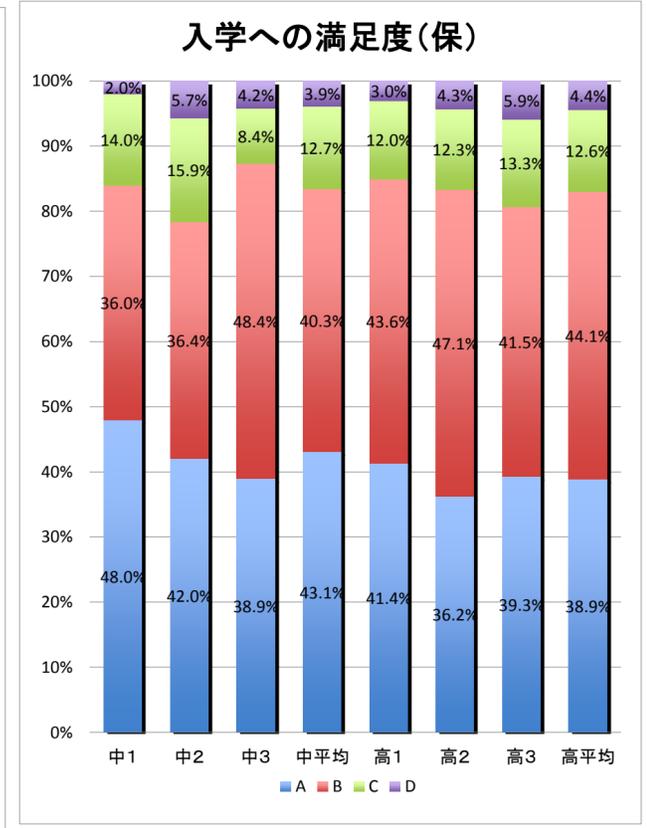
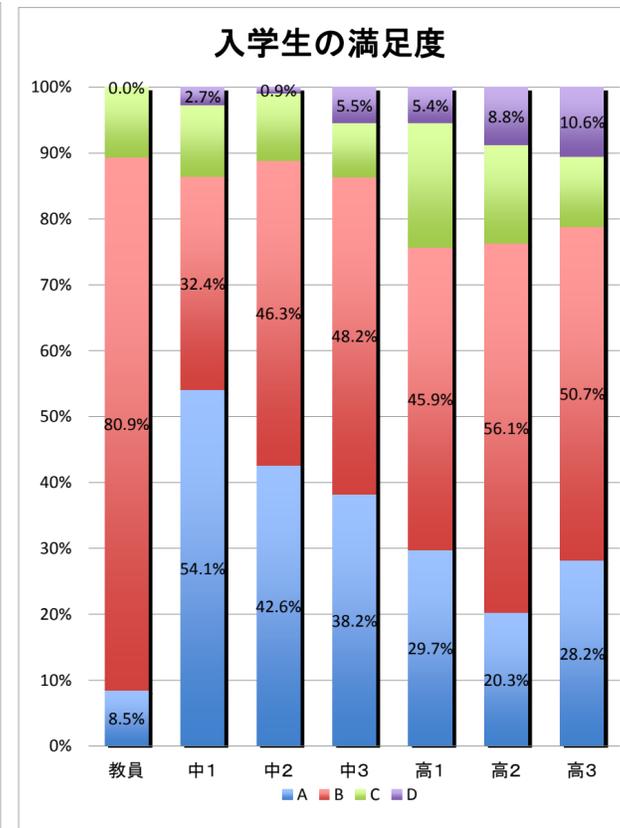
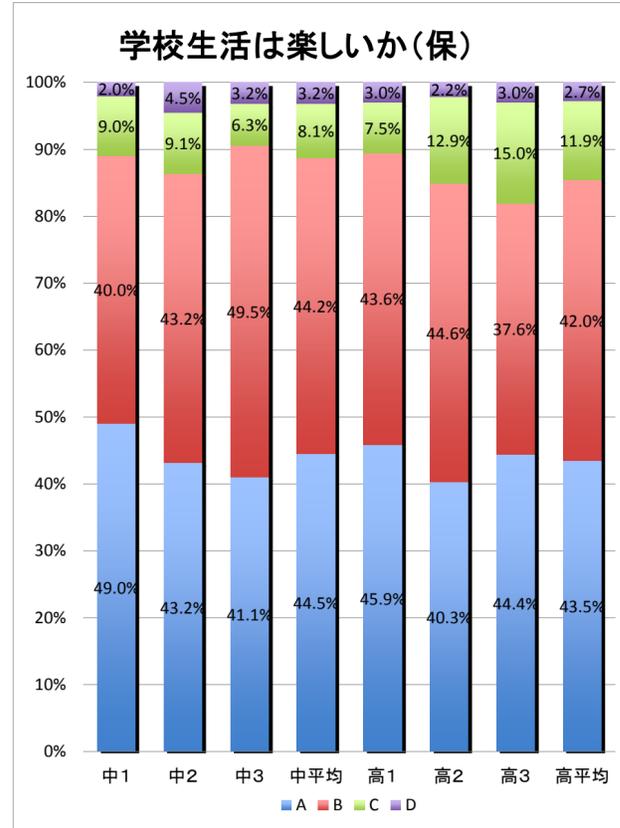
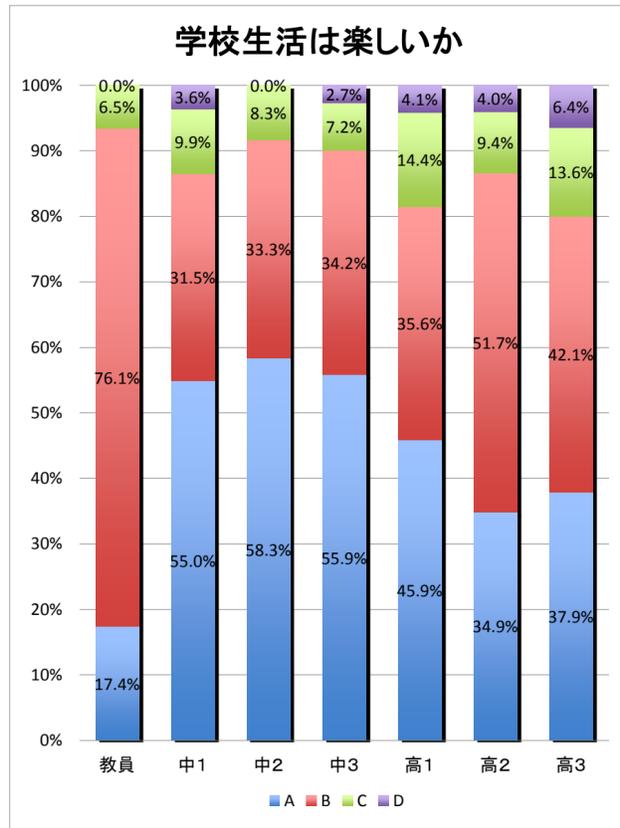
分類	NO		評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成27年度実数					平成27年度%集計				
			大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	A	B	C	D	
教育内容	10	2	徳育(生活指導)	いじめへの対応	いじめの実態把握に努め、生徒が発する危険信号等を見逃さないようにして早期発見に努める体制が整い、学校組織として共有できている	教員	2.3	16	31	0	0	34.0%	66.0%	0.0%	0.0%	
					いじめを許さない指導が日常的に行われていると思いますか。	中1生	1.8	31	40	25	14	28.2%	36.4%	22.7%	12.7%	
						中2生	1.8	27	42	31	7	25.2%	39.3%	29.0%	6.5%	
						中3生	2.0	35	45	23	8	31.5%	40.5%	20.7%	7.2%	
						高1生	1.7	30	56	40	20	20.5%	38.4%	27.4%	13.7%	
						高2生	1.6	20	65	43	20	13.5%	43.9%	29.1%	13.5%	
					高3生	1.8	35	56	31	19	24.8%	39.7%	22.0%	13.5%		
					中1保護者	1.9	23	49	18	10	23.0%	49.0%	18.0%	10.0%		
					中2保護者	1.8	14	46	23	5	15.9%	52.3%	26.1%	5.7%		
					中3保護者	2.2	31	50	12	2	32.6%	52.6%	12.6%	2.1%		
					中高合計	1.9	68	145	53	17	24.0%	51.2%	18.7%	6.0%		
					高1保護者	1.8	22	80	19	12	16.5%	60.2%	14.3%	9.0%		
		高2保護者	2.0	27	88	17	7	19.4%	63.3%	12.2%	5.0%					
		高3保護者	2.1	44	72	14	6	32.4%	52.9%	10.3%	4.4%					
		高合計	2.0	93	240	50	25	22.8%	58.8%	12.3%	6.1%					
		3				人権意識を高める指導が日常的に行われていると思いますか。	中1生	1.7	22	51	24	13	20.0%	46.4%	21.8%	11.8%
						中2生	1.9	21	54	28	4	19.6%	50.5%	26.2%	3.7%	
						中3生	1.9	27	55	22	6	24.5%	50.0%	20.0%	5.5%	
						高1生	1.6	22	62	50	13	15.0%	42.2%	34.0%	8.8%	
						高2生	1.5	12	68	48	21	8.1%	45.6%	32.2%	14.1%	
						高3生	1.7	25	63	38	16	17.6%	44.4%	26.8%	11.3%	
						子どもの日常的な言動の中に、人権意識が見られるようになったと思われますか。	中1保護者	1.6	14	41	38	7	14.0%	41.0%	38.0%	7.0%
						中2保護者	1.6	9	38	34	7	10.2%	43.2%	38.6%	8.0%	
						中3保護者	1.9	18	48	28	2	18.8%	50.0%	29.2%	2.1%	
	中高合計					1.7	41	127	100	16	14.4%	44.7%	35.2%	5.6%		
	高1保護者					1.7	18	72	28	15	13.5%	54.1%	21.1%	11.3%		
	高2保護者					1.9	29	64	43	3	20.9%	46.0%	30.9%	2.2%		
					高3保護者	1.9	33	65	32	6	24.3%	47.8%	23.5%	4.4%		
					高合計	1.8	80	201	103	24	19.6%	49.3%	25.2%	5.9%		

分類	NO		評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成27年度実数					平成27年度%集計			
			大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	A	B	C	D
教育内容	10	4	徳育(生活指導)	生徒理解	中高の発達段階に応じた生徒指導に留意し、生徒の成長を促す生徒指導を行っている。	教員	2.1	10	31	5	1	21.3%	66.0%	10.6%	2.1%
					先生とのコミュニケーションが十分とれ、先生の指導に納得している。	中1生	1.5	19	42	25	24	17.3%	38.2%	22.7%	21.8%
						中2生	2.0	28	55	22	2	26.2%	51.4%	20.6%	1.9%
						中3生	1.9	26	54	25	6	23.4%	48.6%	22.5%	5.4%
						高1生	1.8	27	66	46	9	18.2%	44.6%	31.1%	6.1%
						高2生	1.6	16	76	35	22	10.7%	51.0%	23.5%	14.8%
						高3生	1.8	30	70	24	17	21.3%	49.6%	17.0%	12.1%
					教師と生徒とのコミュニケーションが十分とれていると思われますか。	中1保護者	1.8	23	39	30	8	23.0%	39.0%	30.0%	8.0%
						中2保護者	1.8	17	42	23	6	19.3%	47.7%	26.1%	6.8%
						中3保護者	1.7	14	50	25	7	14.6%	52.1%	26.0%	7.3%
						中合計	1.8	54	131	78	21	19.0%	46.1%	27.5%	7.4%
						高1保護者	1.8	21	77	22	13	15.8%	57.9%	16.5%	9.8%
						高2保護者	1.8	26	72	26	15	18.7%	51.8%	18.7%	10.8%
	高3保護者	2.0	36	70		23	5	26.9%	52.2%	17.2%	3.7%				
	高合計	1.9	83	219	71	33	20.4%	53.9%	17.5%	8.1%					
	11		体育	健康な身体づくり	基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導を行っている。	教員	2.0	9	31	6	1	19.1%	66.0%	12.8%	2.1%
					基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導を受けていますか。	中1生	1.8	25	50	26	9	22.7%	45.5%	23.6%	8.2%
						中2生	2.1	32	53	18	4	29.9%	49.5%	16.8%	3.7%
						中3生	2.0	31	55	17	8	27.9%	49.5%	15.3%	7.2%
						高1生	1.8	26	76	36	10	17.6%	51.4%	24.3%	6.8%
						高2生	1.6	20	68	46	15	13.4%	45.6%	30.9%	10.1%
					高3生	1.5	23	55	41	23	16.2%	38.7%	28.9%	16.2%	
					基本的な生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思いますか。	中1保護者	1.9	24	51	19	5	24.2%	51.5%	19.2%	5.1%
中2保護者						1.7	8	52	19	9	9.1%	59.1%	21.6%	10.2%	
中3保護者						2.0	21	55	17	2	22.1%	57.9%	17.9%	2.1%	
中合計	1.9	53	158	55		16	18.8%	56.0%	19.5%	5.7%					
高1保護者	1.9	23	78	21		10	17.4%	59.1%	15.9%	7.6%					
高2保護者	1.9	25	80	33	1	18.0%	57.6%	23.7%	0.7%						
高3保護者	1.9	31	65	35	5	22.8%	47.8%	25.7%	3.7%						
高合計	1.9	79	223	89	16	19.4%	54.8%	21.9%	3.9%						

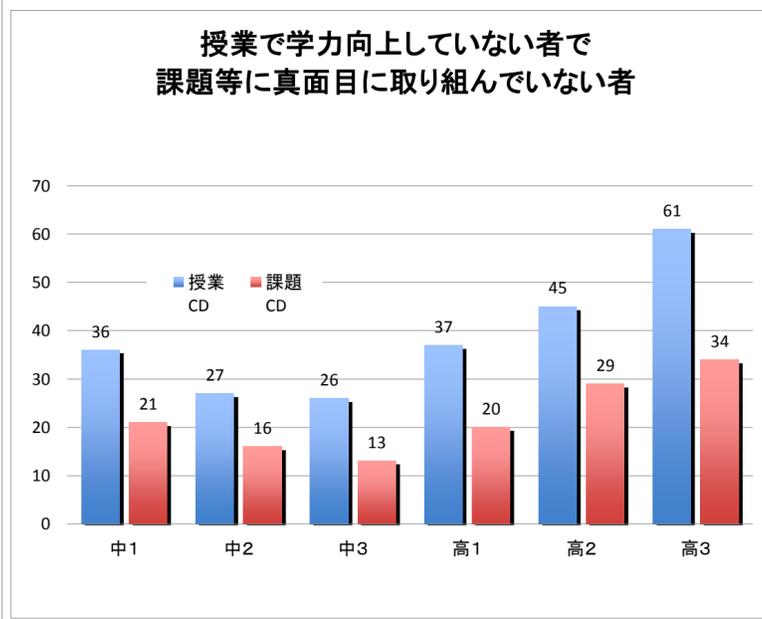
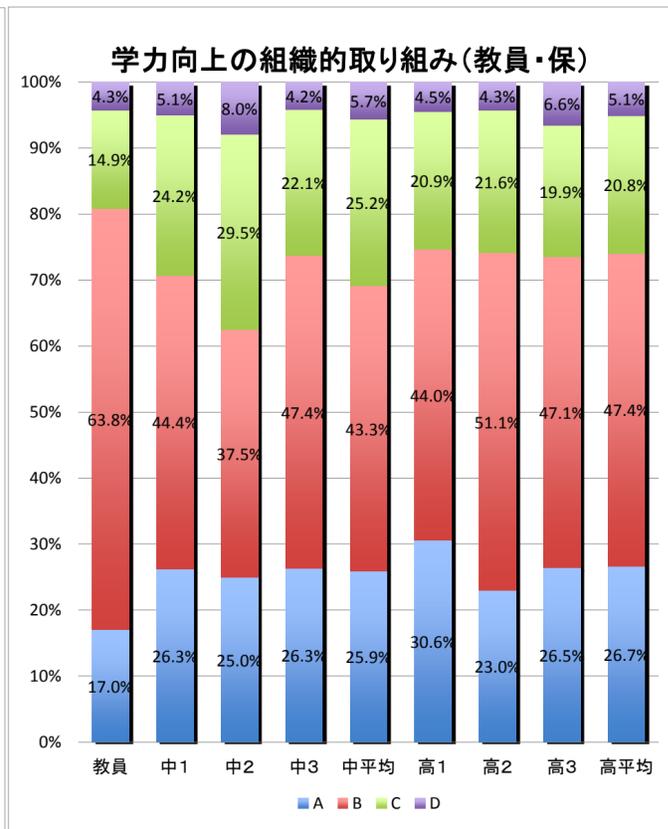
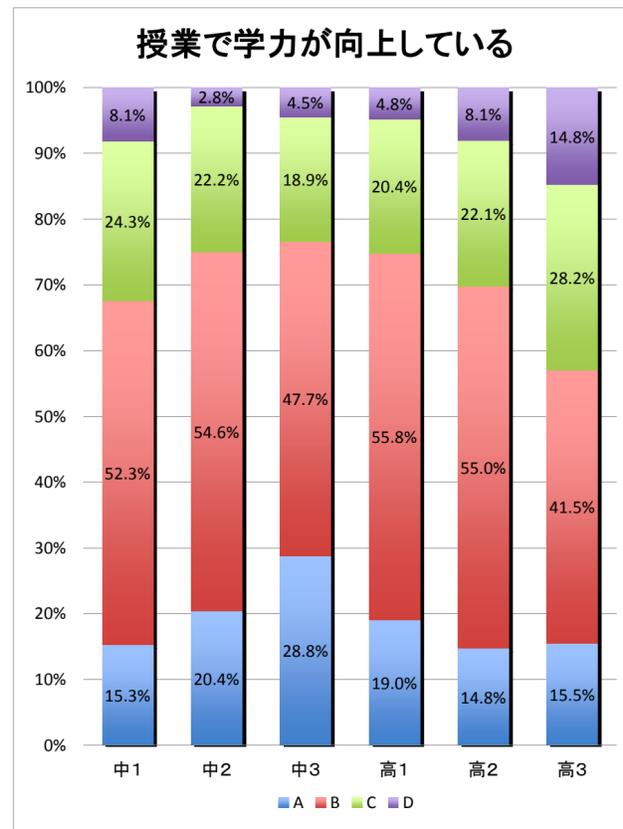
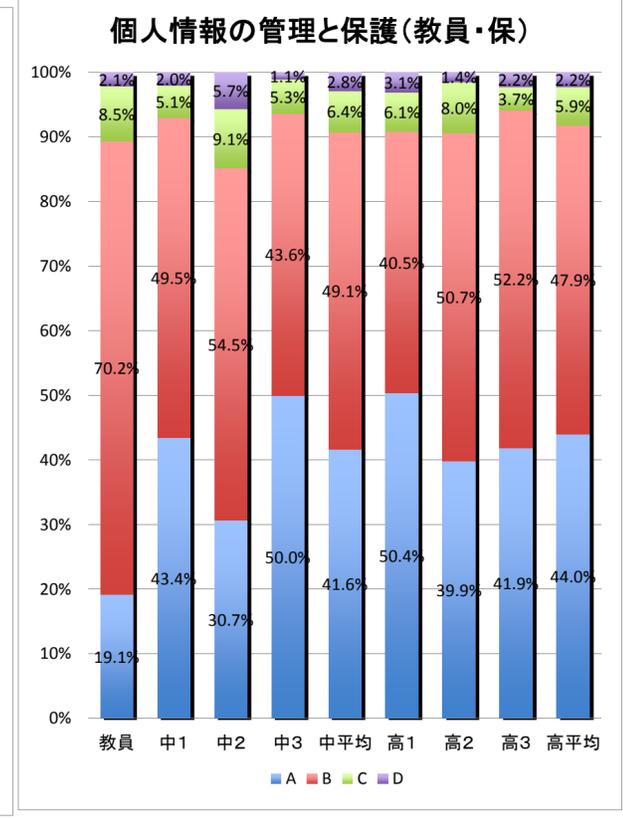
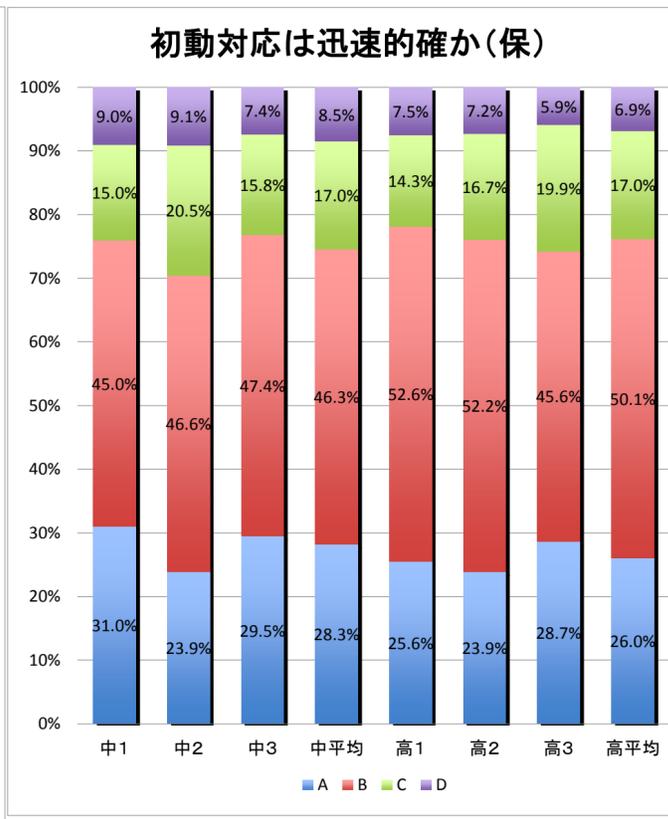
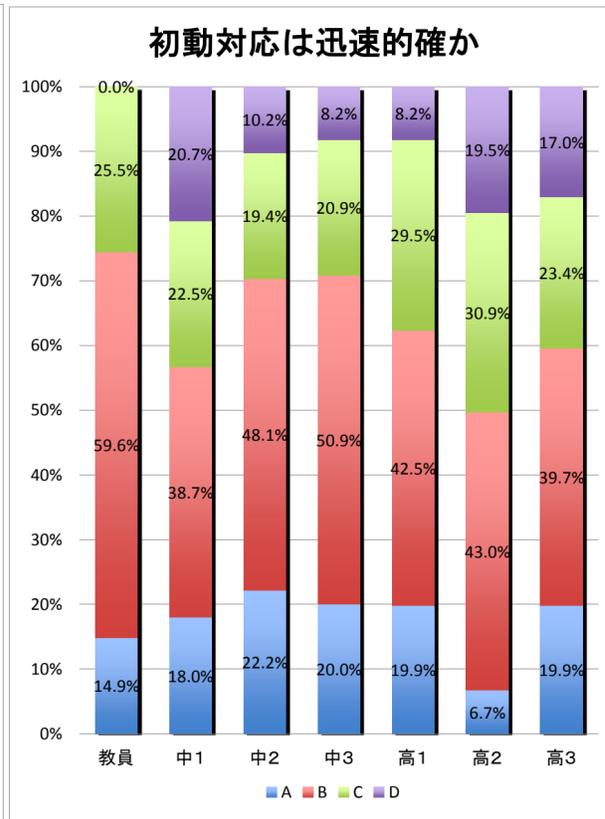
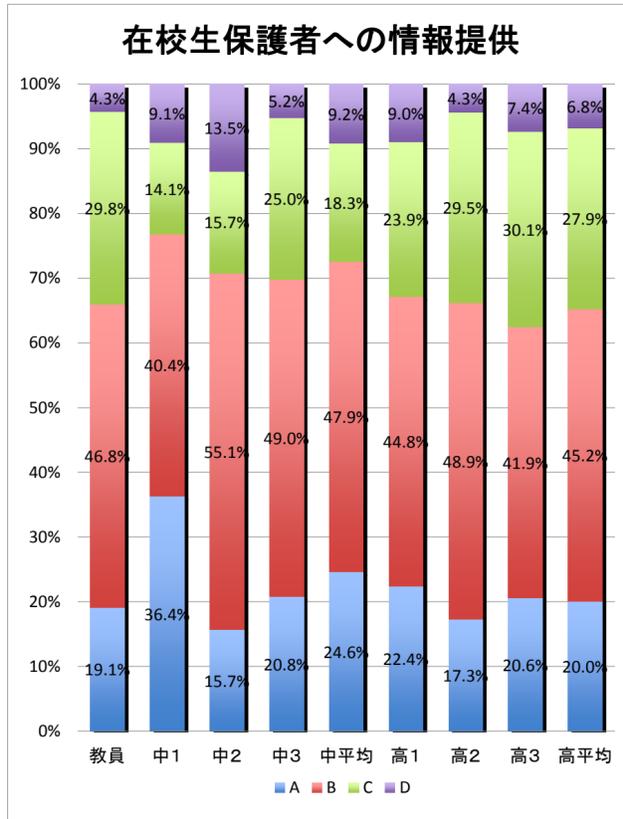
分類	NO		評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成27年度実数					平成27年度%集計				
			大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	A	B	C	D	
教育内容	12	1	学校間連携	中高大連携事業の実践	高大あるいは中大、初中高の学校間の教育連携が積極的に行われている。	教員	2.1	14	25	8	0	29.8%	53.2%	17.0%	0.0%	
					高大あるいは中大、初中高の学校同士の教育連携があると思いますか。	中1生	1.9	35	46	19	11	31.5%	41.4%	17.1%	9.9%	
						中2生	2.1	42	42	19	4	39.3%	39.3%	17.8%	3.7%	
						中3生	2.1	44	46	14	7	39.6%	41.4%	12.6%	6.3%	
						高1生	2.2	54	68	19	5	37.0%	46.6%	13.0%	3.4%	
						高2生	1.9	38	69	26	15	25.7%	46.6%	17.6%	10.1%	
						高3生	1.7	34	57	32	19	23.9%	40.1%	22.5%	13.4%	
						中合計	1.9	65	146	55	19	22.8%	51.2%	19.3%	6.7%	
					高大あるいは中大、初中高の学校同士の教育連携が積極的に行われていると思いますか。	中1保護者	1.9	25	50	18	7	25.0%	50.0%	18.0%	7.0%	
						中2保護者	1.7	15	40	25	9	16.9%	44.9%	28.1%	10.1%	
	中3保護者	2.1	25	56		12	3	26.0%	58.3%	12.5%	3.1%					
	高合計	2.0	116	210		61	18	28.6%	51.9%	15.1%	4.4%					
	2					中高、関西大学に関する相互理解を進めるための取り組みを行っている。	教員	2.2	15	26	6	0	31.9%	55.3%	12.8%	0.0%
						関大に関する情報が増え、大学進学モチベーションが上がってきましたか。	中1生	1.4	15	35	35	25	13.6%	31.8%	31.8%	22.7%
							中2生	1.4	13	37	43	15	12.0%	34.3%	39.8%	13.9%
							中3生	1.6	10	61	26	14	9.0%	55.0%	23.4%	12.6%
							高1生	2.0	38	75	23	11	25.9%	51.0%	15.6%	7.5%
							高2生	1.8	27	78	33	11	18.1%	52.3%	22.1%	7.4%
							高3生	1.7	40	51	23	28	28.2%	35.9%	16.2%	19.7%

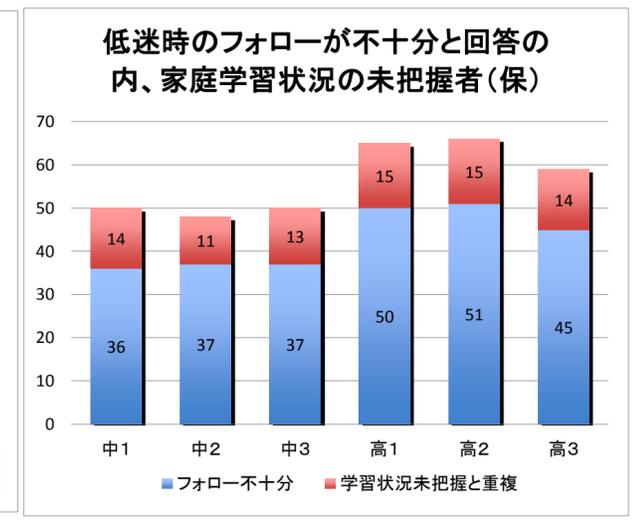
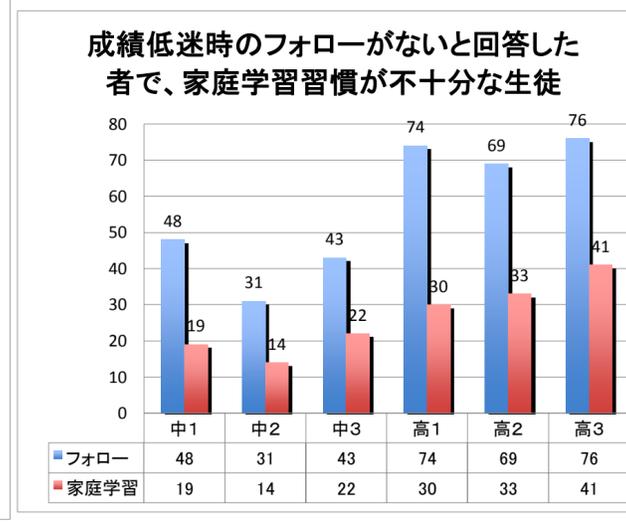
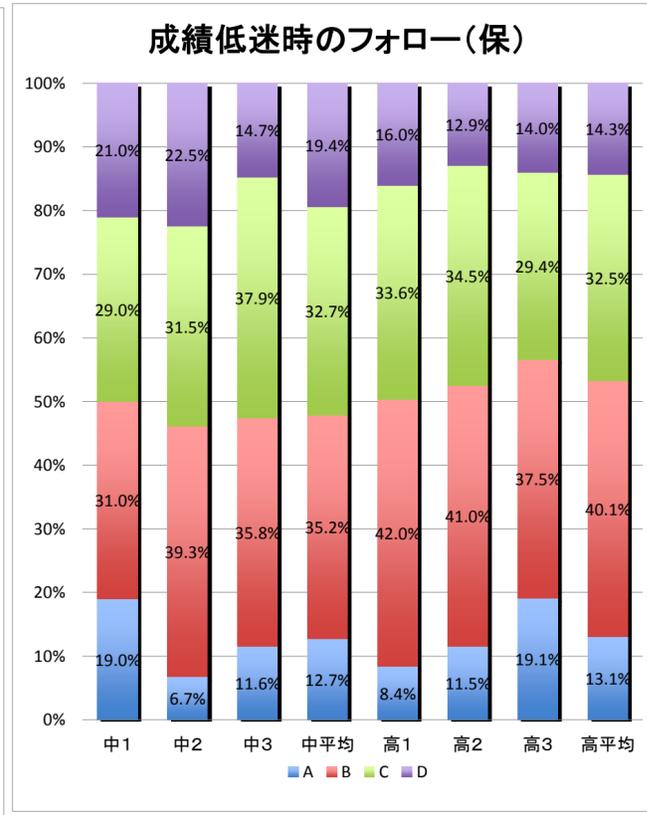
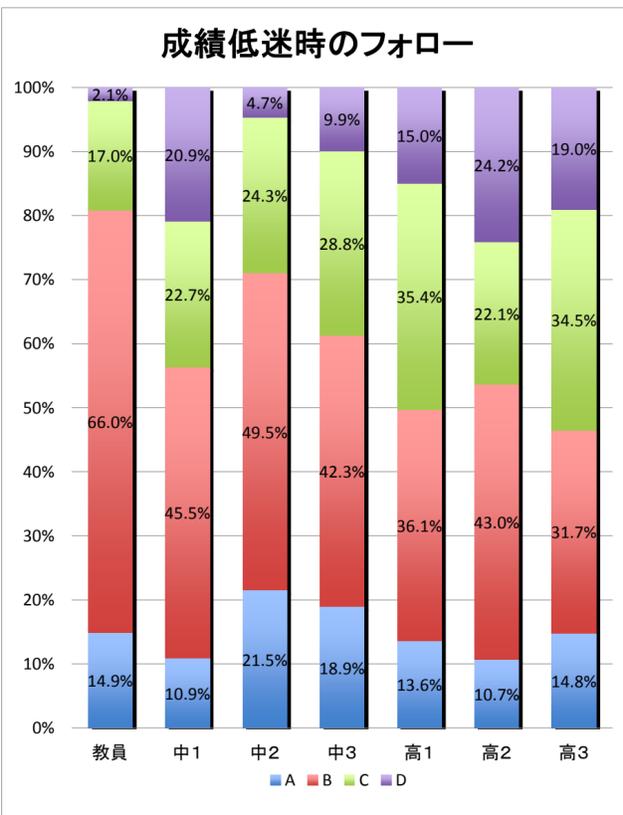
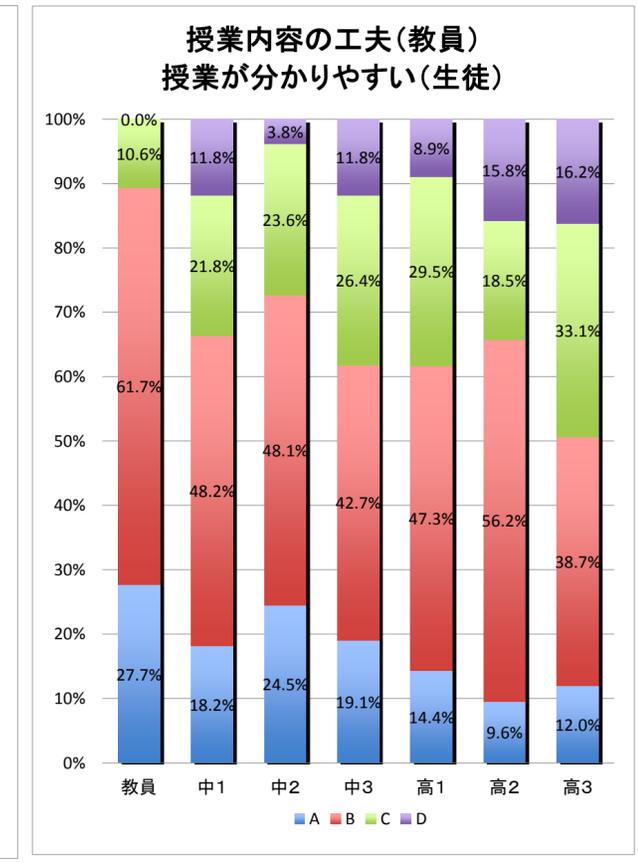
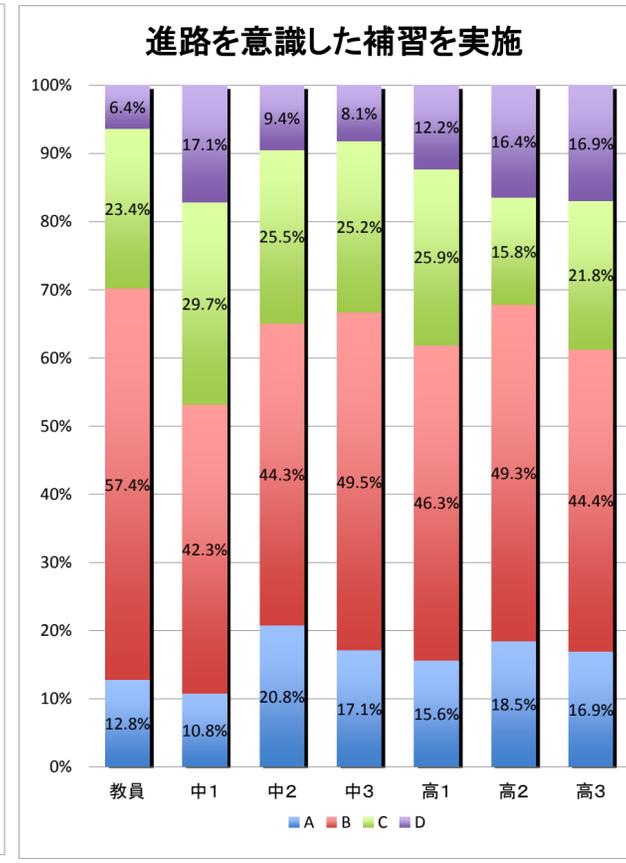
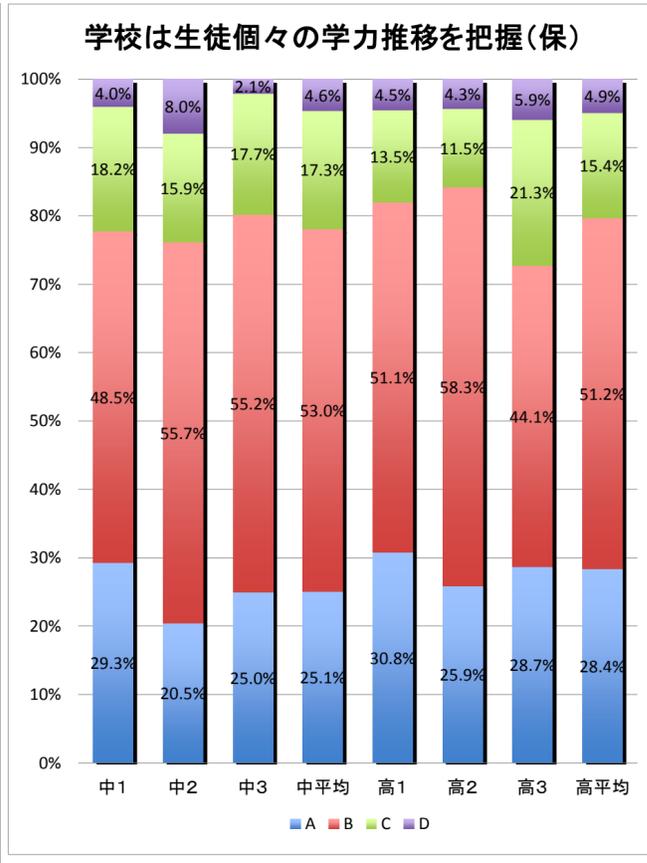
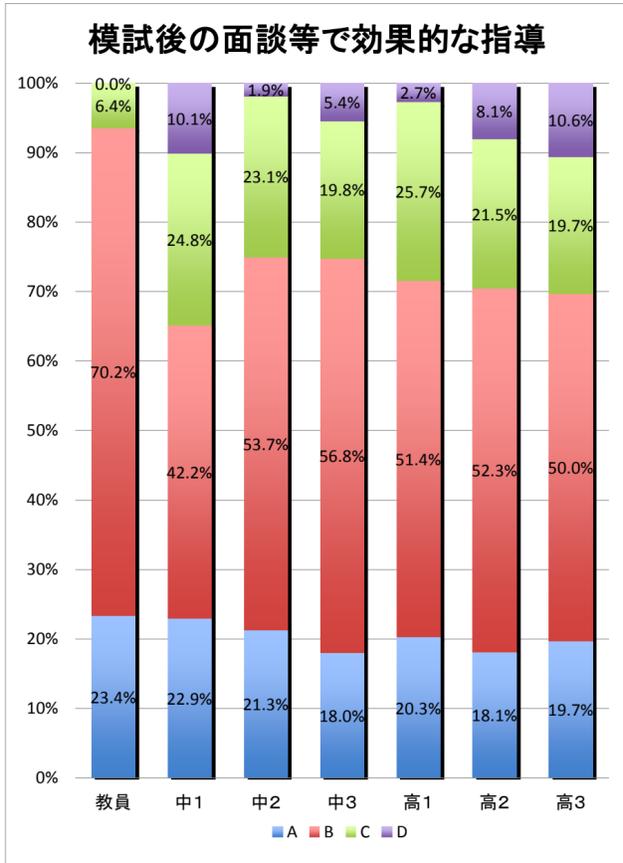
分類	NO	評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成27年度実数					平成27年度%集計			
		大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	A	B	C	D
生徒支援	13	カウンセ リング	カウンセ リング 体制	生徒・保護者へのカウンセリング体制を整えている。	教員	2.2	12	34	1	0	25.5%	72.3%	2.1%	0.0%
				悩みが生じたときに、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。	中1生	1.5	22	37	29	23	19.8%	33.3%	26.1%	20.7%
					中2生	1.8	23	49	26	10	21.3%	45.4%	24.1%	9.3%
					中3生	1.7	15	65	16	15	13.5%	58.6%	14.4%	13.5%
					高1生	1.8	31	69	29	19	20.9%	46.6%	19.6%	12.8%
					高2生	1.7	27	77	25	20	18.1%	51.7%	16.8%	13.4%
				困ったことがあった時に相談できる先生がいますか。	中1生	1.1	13	27	26	41	12.1%	25.2%	24.3%	38.3%
					中2生	1.5	20	35	25	21	19.8%	34.7%	24.8%	20.8%
					中3生	1.5	18	43	22	26	16.5%	39.4%	20.2%	23.9%
					高1生	1.4	22	47	43	31	15.4%	32.9%	30.1%	21.7%
					高2生	1.6	19	64	41	21	13.1%	44.1%	28.3%	14.5%
				子どもに何らかの問題が生じたとき、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。	高3生	1.8	33	57	33	16	23.7%	41.0%	23.7%	11.5%
					中1保護者	1.8	22	43	28	7	22.0%	43.0%	28.0%	7.0%
					中2保護者	1.7	11	47	26	5	12.4%	52.8%	29.2%	5.6%
					中3保護者	1.9	20	45	23	5	21.5%	48.4%	24.7%	5.4%
					中合計	1.8	53	135	77	17	18.8%	47.9%	27.3%	6.0%
					高1保護者	1.9	26	76	25	5	19.7%	57.6%	18.9%	3.8%
高2保護者	1.9	25	81		24	9	18.0%	58.3%	17.3%	6.5%				
高3保護者	2.0	38	67	22	9	27.9%	49.3%	16.2%	6.6%					
高合計	1.9	89	224	71	23	21.9%	55.0%	17.4%	5.7%					

分類	NO		評価項目		組織面の自己点検・評価（設問）	アンケート対象	平成27年度実数					平成27年度%集計			
			大項目	小項目			平均点	A	B	C	D	A	B	C	D
教員研修 資質向上	14	1	教員の研 修活動	教員研修の 充実	本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している。	教員	1.9	12	23	9	3	25.5%	48.9%	19.1%	6.4%
					工夫された授業やおもしろい実験などが取り入れられてると思いますか。	中1生	2.3	56	39	12	4	50.5%	35.1%	10.8%	3.6%
						中2生	2.3	56	34	13	4	52.3%	31.8%	12.1%	3.7%
						中3生	2.2	48	44	11	8	43.2%	39.6%	9.9%	7.2%
						高1生	1.7	31	59	42	16	20.9%	39.9%	28.4%	10.8%
						高2生	1.9	36	69	30	14	24.2%	46.3%	20.1%	9.4%
						高3生	1.8	39	57	30	16	27.5%	40.1%	21.1%	11.3%
						本校の教員に教材研究や指導力の向上に努めようとしていると思われませんか。	中1保護者	1.9	20	48	23	5	20.8%	50.0%	24.0%
					中2保護者		1.8	14	48	18	7	16.1%	55.2%	20.7%	8.0%
					中3保護者		1.8	18	48	22	5	19.4%	51.6%	23.7%	5.4%
					中合計		1.8	52	144	63	17	18.8%	52.2%	22.8%	6.2%
					高1保護者		2.0	33	69	16	9	26.0%	54.3%	12.6%	7.1%
					高2保護者		1.8	22	78	26	10	16.2%	57.4%	19.1%	7.4%
		高3保護者	1.8	32	62		29	12	23.7%	45.9%	21.5%	8.9%			
高合計	1.9	87	209	71	31	21.9%	52.5%	17.8%	7.8%						
2	2	教員研修の 計画性	教員の資質を高めるために計画的に校内外で研修を受ける体制を整えている。	教員	2.0	15	21	9	2	31.9%	44.7%	19.1%	4.3%		



2015年度 関西大学高等部・中等部点検・評価アンケート集計 凡例:A…そう思う B…どちらかと言えばそう思う C…どちらかと言えばそう思わない D…そう思わない





2015年度 関西大学高等部・中等部点検・評価アンケート集計 凡例:A…そう思う B…どちらかと言えばそう思う C…どちらかと言えばそう思わない D…そう思わない

